

國 情 義 勇

2010年度

講 義 計 画

桃山学院大学

画

十

義

講

科目名	クラス	講義区分
データ解析実習 03<秋集>		
村 上 あかね	4 単位	

【講義概要】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析諸技法の習得をめざす。

【学習目標】

授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析諸技法を使いこなせるようになることを目指す。また、秋学期の「社会調査実習Ⅱ」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

【講義計画】

- 第1回 実習の計画（必要な場合は実習生のグループ分け）
- 第2回 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 第3回 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 第4回 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方（単純集計・度数分布）
- 第5回 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方（代表値・平均値・分散）
- 第6回 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方（クロス集計・比率の差）
- 第7回 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念（クラマー係数、ファイ係数）
- 第8回 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念（ピアソン係数、ケンドール係数）
- 第9回 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 第10回 研究論文の検討 ①統計データの社会的分析
- 第11回 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎（重回帰分析）
- 第12回 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎（因子分析、主成分分析）
- 第13回 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ（重回帰、ロジット回帰）
- 第14回 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ（数値化理論）
- 第15回 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 第16回 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 第17回 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 第18回 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 第19回 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 第20回 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 第21回 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 第22回 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 第23回 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 第24回 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 第25回 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラボレーション
- 第26回 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラボレーション
- 第27回 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際（重回帰分析）
- 第28回 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際（因子分析、主成分分析）
- 第29回 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 第30回 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

レポート 70% 出席 30%

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期提出の調査計画書（4000字程度）によって評価する。詳細は第1回の授業時に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ[第2版]』ミネルヴァ書房

【参考文献】

足立浩平, 2006, 『多変量データ解析法——心理・教育・社会系のための入門』ナカニシヤ出版
 清水誠, 1996, 『データ分析——はじめの一步』講談社（ブルーバックス）
 ハンス・ザイセル（佐藤郁哉訳）, 2005, 『数字で語る——社会統計学入門』新曜社
 村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士編, 2007, 『SPSSによる多変量解析』オーム社
 岩井紀子・保田時男, 2007, 『調査データ分析の基礎——JGSSデータとオンライン集計の活用』有斐閣
 山本善郎, 2005, 『レポート・プレゼンに強くなるグラフの表現術』講談社（現代新書）

【備考】

・08～09生対象

科目名 クラス 講義区分	
データベース実習 <春>	
初 瀬 慎 一	2単位

【講義概要】

実習を通じ、研究やオフィスにおいてのデータ整理必須ツールであるデータベースの初歩を学習する。

【学習目標】

本講座では、Microsoft Accessを用いてデータベースを作成し、リレーショナルデータベース全般の基礎的概念、構築・運用の実際について学ぶ。次いでサーバーに構築されたRDBMS環境を利用して、SQLを用いてのデータ検索を行う。

さらにWEBサーバーと連携した、簡易データベース機能の基礎を知る。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
データベースとは
Microsoft Accessの基本操作
- 第2回 テーブルの作成
- 第3回 正規化
- 第4回 データの入力 表計算ソフトよりのインポート
- 第5回 データの入力 外部データベースとの連携
- 第6回 データの検索 クエリとSQL
- 第7回 データの検索 クエリとSQL
- 第8回 テーブルの連携 リレーションシップと整合性
- 第9回 テーブルの連携 リレーションシップと整合性
- 第10回 画面設計
- 第11回 報告書設計
- 第12回 総合演習 システム設計
- 第13回 総合演習 製作
- 第14回 総合演習
- 第15回 まとめ フリーのデータベースソフトとWebデータベース

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

【教科書】

配布資料を用いる。

【備考】

【準備学習の指示】 配布資料を熟読しておくこと。

科目名 クラス 講義区分	
手形法小切手法 <通期>	
牛 丸 與志夫	4単位

【講義概要】

講義は、まず、国内取引で頻繁に使われている約束手形について行い、続いて、為替手形および小切手についての特殊性を説明する。

授業の方法は、簡単に規制の概要を説明し、次に練習問題を解きながら、応用力を養っていく。

【学習目標】

わが国において、手形・小切手が企業の支払い手段として重要な役割を果たしている。そこで、講義では手形および小切手の法規制の基本的な知識と応用力の取得を目標とする。

【講義計画】

- 第1回 手形・小切手の意義と機能・約束手形の振出・手形要件（金額）
- 第2回 手形要件（満期）
- 第3回 手形要件（支払地）・支払場所
- 第4回 手形の署名（個人）
- 第5回 手形の署名（法人・組合）
- 第6回 白地手形
- 第7回 代理人による手形振出
- 第8回 無権代理・偽造
- 第9回 手形の変造
- 第10回 手形の授受と原因関係
- 第11回 手形行為における意思表示の瑕疵・欠缺
- 第12回 手形保証
- 第13回 手形の書換
- 第14回 約束手形の移転・裏書の方式
- 第15回 善意取得
- 第16回 人的抗弁の切断
- 第17回 裏書の効力（権利移転効力）
- 第18回 裏書の効力（担保的効力）
- 第19回 裏書の効力（資格授与的効力）
- 第20回 特殊の裏書（期限後裏書）
- 第21回 特殊の裏書（公然たる取立委任裏書）
- 第22回 特殊の裏書（隠れたる取立委任裏書）
- 第23回 特殊の裏書（戻裏書）
- 第24回 融通手形の抗弁
- 第25回 悪意の抗弁
- 第26回 手形の支払呈示
- 第27回 支払の免責
- 第28回 手形の喪失・時効・利得償還請求権
- 第29回 為替手形の特徴・為替手形の引受
- 第30回 小切手の特徴・線引小切手

【成績評価の方法】

試験 100%

小テストおよび期末試験で評価する。

【教科書】

木村秀一 判例手形小切手法 中央経済社

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
哲学 < 通期 >		
木 下 昌 巳	4 単位	

【講義概要】

哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜け、その究極的なあり方を根源的・包括的に認識しようとする学問である。本講義では、古代ギリシアから現代に至るまでの西洋の主要な哲学者たちを取り上げ、彼らの思想を学び、哲学という学問が取り組もうとする問題と彼らの考え方の道筋を理解することを目指す。哲学という学問は、日常生活の常識を疑うものであり、本質的に難解である。学ぶ側に哲学の問題に対する積極的な関心がなければ、その理解は困難であり、その意義を見出すことはできないであろう。世界と人間について深く考え、その本質を知ることに関心する人の受講を希望する。

なお、この講義では、哲学的問題のなかでも、存在論（世界は究極的にいかなる存在から成り立っているのか？）と認識論（人間は何をどこまで知ることができるのか？）を中心に取り上げる。「ひとはいかに生きるべきか？」という問題を取り扱った哲学思想に関心のある人は、哲学とは別に開講されている倫理学の受講を勧める。

【学習目標】

春学期は、「哲学」という学問が成立した古代ギリシア期の哲学者たちを年代順に取り上げ、「哲学」という学問がどのように成立し、発展していったのかを概観することによって、哲学という学問の根本的な問題意識を理解することを目指す。秋学期は、ヨーロッパの近世以降の哲学をテーマとして、16世紀から20世紀に至るまでの主要な哲学者の中心思想を解説する。

【講義計画】

- 第1回 哲学とは何か。および哲学の時代区分
- 第2回 ソクラテス以前の哲学者たち——ミレトス学派
- 第3回 ソクラテス以前の哲学者たち——エレア派①
- 第4回 ソクラテス以前の哲学者たち——エレア派②
- 第5回 ソクラテス
- 第6回 プラトン①
- 第7回 プラトン②
- 第8回 プラトン③
- 第9回 アリストテレス①
- 第10回 アリストテレス②
- 第11回 古代の原子論①
- 第12回 古代の原子論②
- 第13回 ストア派の思想①
- 第14回 ストア派の思想②
- 第15回 中世哲学の概観
- 第16回 ルネサンス期の哲学
- 第17回 ベーコン
- 第18回 デカルト①
- 第19回 デカルト②
- 第20回 スピノザとライブニッツ
- 第21回 ロック
- 第22回 バークリー
- 第23回 ヒューム
- 第24回 カント①
- 第25回 カント②
- 第26回 カント③
- 第27回 ヘーゲル①
- 第28回 ヘーゲル②
- 第29回 20世紀の哲学①
- 第30回 20世紀の哲学②

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%
テストは、前期と後期にそれぞれ1回ずつ、計2回する。出席は毎回取らないが、不定期に授業の内容に関する小作文を授業中に書いてもらい、それを出席点として成績に加味する。

【教科書】

必要なプリントを授業中に配布する。必要な書籍は授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に指示する。

科目名	クラス	講義区分
ドイツ語 I a 01<春> ドイツ語 I a 02<春>		
田 中 秀 穂	1 単位	

【講義概要】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。

【学習目標】

ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな特徴がある。このようなドイツ語の表現と理解の基礎を、練習問題に取り組みながら身につける。

【講義計画】

- 第1回 文字と発音 1
- 第2回 文字と発音 2
- 第3回 動詞の現在人称変化
- 第4回 名詞と冠詞
- 第5回 不規則変化動詞・命令形
- 第6回 練習問題
- 第7回 練習問題
- 第8回 中間試験
- 第9回 人称代名詞・前置詞
- 第10回 冠詞類・疑問代名詞
- 第11回 形容詞
- 第12回 分離動詞・zu不定詞・副文
- 第13回 練習問題
- 第14回 練習問題
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価（可否）は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間テストをすることもある。

【教科書】

橋本政義、橋本淑恵 楽しく学ぶドイツ語 [改訂版] 三修社

【参考文献】

独和辞典は、初回にいくつか紹介するので、随意に選んで1冊購入すること。

【備考】

【準備学習の指示】
地図を見て、ヨーロッパにおけるドイツの位置と、その周辺にどのような国々があるかを確認しておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅰ b 01<春>	
村 田 佳 隆	1 単位

【講義概要】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象にした、初歩的な演習授業。

【学習目標】

ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずタツブリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。
とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【講義計画】

- 第1回 文字と発音
- 第2回 発音その1
- 第3回 発音その2
- 第4回 Lektion1 その1 挨拶、自己紹介
- 第5回 Lektion1 その2 動詞の形
- 第6回 Lektion1 その3 動詞の形
- 第7回 Lektion2 その1 友達を誘う
- 第8回 Lektion2 その2 名詞について
- 第9回 Lektion2 その3 名詞について
- 第10回 Lektion3 その1 買い物
- 第11回 Lektion3 その2 助動詞
- 第12回 Lektion3 その3 助動詞
- 第13回 Lektion4 その1 注文と支払い
- 第14回 Lektion4 その2 時刻
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【教科書】

桜井麻美、信岡資生 それ行け、ドイツ語！ 第三書房

【備考】

【準備学習の指示】

特になし。
・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅰ b 02<春>	
高 田 里恵子	1 単位

【講義概要】

I aの授業で習う文法を応用して、さまざまなテキストを読んでいます。また簡単な会話練習をします。

【学習目標】

目標はドイツ語を習得することだけではありません。人前で大きな声で話すことができる「度胸」を身につけることです。少しくらい間違ってもいいです、発音なんて悪くてもいいです。楽しく大きな声でドイツ語を話すようにしましょう。「度胸」ということは、英語や日本語を話すときにも大切な能力です。

【講義計画】

- 第1回 これからの授業の進め方
ドイツ語の仕組み
- 第2回 大きな声を出してみる ドイツ語の発音練習①
- 第3回 大きな声を出してみる ドイツ語の発音練習②
- 第4回 大きな声を出してみる ドイツ語の発音練習③
- 第5回 自己紹介をしてみる①
- 第6回 自己紹介をしてみる②
- 第7回 自己紹介をしてみる③
- 第8回 相手にいろいろ質問する①
- 第9回 相手にいろいろ質問する②
- 第10回 相手にいろいろ質問する③
- 第11回 ミュンヘン到着
- 第12回 ミュンヘンの町
- 第13回 ミュンヘンのホテルに泊まる
- 第14回 文法事項の復習
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

試験を行いません。成績（可否）はaの担当の教員と相談のうえ決定されます。平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉強意欲を正に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】

【準備学習の指示】

語学の習得のためには、家での復習が欠かせません。配布プリントのなかの文章を自宅で暗唱・暗記することをお勧めします。
・02～07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
ドイツ語Ⅱ a	01<秋>	
ドイツ語Ⅱ a	02<秋>	
田 中 秀 穂	1 単位	

【講義概要】

春学期に続き、初級文法の講義と演習を行なう。

【学習目標】

春学期と合わせて受講することで、ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得する。

【講義計画】

- 第1回 話法の助動詞・未来
- 第2回 動詞の3基本形
- 第3回 現在完了・分詞
- 第4回 練習問題
- 第5回 練習問題
- 第6回 練習問題
- 第7回 中間試験
- 第8回 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 第9回 関係代名詞
- 第10回 受動態
- 第11回 接続法
- 第12回 練習問題
- 第13回 練習問題
- 第14回 練習問題
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価（可否）は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間テストをすることもある。

【教科書】

橋本政義、橋本淑恵 楽しく学ぶドイツ語 〔改訂版〕 三修社

【備考】

【準備学習の指示】

春学期に学習したこと（とりわけ動詞の現在人称変化および冠詞〔類〕と名詞の格変化）を、口をついて出るよう反復練習しておくこと。
 ・02～07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
ドイツ語Ⅱ b	01<秋>	
村 田 佳 隆	1 単位	

【講義概要】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象にした、初歩的な演習授業。

【学習目標】

ドイツ語学習の土台をつくることがこの授業の目標である。最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【講義計画】

- 第1回 前期の復習
- 第2回 Lektion 4 その3 不規則動詞
- 第3回 Lektion 5 その1 切符
- 第4回 Lektion 5 その2 冠詞
- 第5回 Lektion 5 その3 冠詞
- 第6回 Lektion 6 その1 道を尋ねる
- 第7回 Lektion 6 その2 前置詞
- 第8回 Lektion 6 その3 前置詞
- 第9回 Lektion 7 その1 病気
- 第10回 Lektion 7 その2 出来事
- 第11回 Lektion 7 その3 再帰
- 第12回 Lektion 8 その1 過去
- 第13回 Lektion 8 その2 比較
- 第14回 Lektion 8 その3
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【教科書】

桜井麻美、信岡資生 それ行け、ドイツ語！ 第三書房

【備考】

【準備学習の指示】

前期の内容を復習しておくこと。
 ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅱ b 02<秋>	
高 田 里恵子	1 単位

【講義概要】

ドイツ語Ⅱ b の続きです。文法事項の学習もだいぶ進みましたので、すこし難しい文章に挑戦してみることになります。

【学習目標】

さまざまな場面でどのようなドイツ語表現を使うか、具体的な会話をとおして学習していきましょう。

【講義計画】

- 第1回 何をしていますか①
- 第2回 何をしていますか②
- 第3回 趣味について①
- 第4回 趣味について②
- 第5回 ドイツのお金
- 第6回 これはいくらですか
- 第7回 買い物をする
- 第8回 家族の構成①
- 第9回 家族の構成②
- 第10回 ホームパーティ①
- 第11回 ホームパーティ②
- 第12回 辞書を引かないで推測する①
- 第13回 辞書を引かないで推測する②
- 第14回 一週間の計画
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

試験を行いません。成績（可否）は a の担当の教員と相談のうえ決定されます。平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉学意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】

【準備学習の指示】

たいぶテキストが複雑になってきますので、配布されたプリントに目を通してることが、授業を有効に活用するために必要となってくると思います。

また、すでに習った文章の暗記というかたちの復習も勧めます。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅲ a <春>	
高 田 里恵子	1 単位

【講義概要】

ドイツ語の短文を自分で作り、暗唱し、暗記するという作業をとおして、文法の復習をし、ドイツ語の力に磨きをかけていきます。

教科書は使用しません。プリントを配布するので、なくさないようしましょう。授業には独和辞書と初級のクラスで使用した文法教科書をもってくること。

【学習目標】

この授業の目標は、初級文法を応用して簡単なドイツ語会話ができるようにすることです。まず、日本語でもドイツ語でも授業中には大きな声で話せるように努めてください。

【講義計画】

- 第1回 この授業の進め方
初級文法の復習 1
- 第2回 初級文法の復習 2
- 第3回 初級文法の復習 3
- 第4回 初級文法の復習 4
- 第5回 初級文法の復習 5
- 第6回 sein動詞とは何か
- 第7回 sein動詞の基本
- 第8回 sein動詞の使い方 応用編 1
- 第9回 sein動詞の使い方 応用編 2
- 第10回 sein動詞の使い方 応用編 3
- 第11回 大きな数字 1
- 第12回 大きな数字 2
- 第13回 年齢と年号 1
- 第14回 年齢と年号 2
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

試験を行いません。成績（可否）は b の担当の教員と相談のうえ決定されます。また平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉学意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです。

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】

【準備学習の指示】

語学の学習には復習が欠かせません。家での学習として、プリントのなかの短文を暗唱・暗記することを勧めます。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅲ b <春>	
田 中 秀 穂	1 単位

【講義概要】

ドイツ人と日本人との間の、ものの見方や考え方、文化などの違いをテーマとして書かれたテキストを読み、それに基づくCDの聞き取り、作文・表現問題、文法確認問題に取り組む。

【学習目標】

親しみやすい内容のドイツ語テキストを読み、聞き、また練習問題を解くことにより、初級ドイツ語で学習した知識を確認・発展させ、さらにドイツ語の能力を高めることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 Lektion 1 「パーティーを開くのは祝ってもらう人！」
第2回 Lektion 1 つづき
第3回 Lektion 2 「20歳を過ぎれば親もとを離れる！」
第4回 Lektion 2 つづき
第5回 Lektion 3 「教室で手をあげないと減点！」
第6回 Lektion 3 つづき
第7回 練習問題
第8回 中間試験
第9回 Lektion 4 「2回不合格だと失格！」
第10回 Lektion 4 つづき
第11回 Lektion 5 「事故死傷者の氏名公表はご法度！」
第12回 Lektion 5 つづき
第13回 練習問題
第14回 練習問題
第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価（可否）は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間試験をすることもある。

【教科書】

大谷弘道 CD付き ドイツ人を知る9章＋1 三修社

【備考】**【準備学習の指示】**

初級ドイツ語で学んだこと（特に発音と文法）を繰り返し復習し、確実に身につけておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅳ a <秋>	
高 田 里 恵 子	1 単位

【講義概要】

ドイツ語の短文を自分で作り、暗唱し、暗記するという作業をとおして、文法の復習をし、ドイツ語の力に磨きをかけていきます。教科書は使用しません。プリントを配布するので、なくさないようにしましょう。授業には独和辞書と初級のクラスで使用した文法教科書をもってくること。

【学習目標】

この授業の目標は、初級文法を応用して簡単なドイツ語会話ができるようになることです。まず、日本語でもドイツ語でも授業中には大きな声で話せるように努めてください。

【講義計画】

- 第1回 ドイツ語Ⅲ aの続きです
werdenとはどんな動詞なのか
第2回 werdenの基本
第3回 werdenの使い方 応用編1
第4回 werdenの使い方 応用編2
第5回 werdenの使い方 応用編3
第6回 いま何時ですか？
第7回 何時に起きましたか？
第8回 いつまでここにいられます？
第9回 助動詞と気持ちの表現1
第10回 助動詞と気持ちの表現2
第11回 接続法の文法事項復習
第12回 接続法と気持ちの表現1 もう少しで電車に乗り遅れるところだった！
第13回 接続法と気持ちの表現2 もう少し真面目に勉強していたらなあ！
第14回 今日は何月何日ですか？
第15回 テスト

【成績評価の方法】

試験を行ないます。成績（可否）はbの担当の教員と相談のうえ決定されます。また平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです。

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】**【準備学習の指示】**

語学の学習には復習が欠かせません。家での学習として、プリントのなかの短文を暗唱・暗記することを勧めます。
・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅳ b <秋>	
田 中 秀 穂	1 単位

【講義概要】

ドイツ人と日本人との間の、ものの見方や考え方、文化などの違いをテーマとして書かれたテキストを読み、それに基づくCDの聞き取り、作文・表現問題、文法確認問題に取り組む。

【学習目標】

親しみやすい内容のドイツ語テキストを読み、聞き、また練習問題を解くことにより、初級ドイツ語で学習した知識を確認・発展させ、さらにドイツ語の能力を高めることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 Lektion 6 「終点を知らない電車に乗れない！」
- 第2回 Lektion 6 つづき
- 第3回 Lektion 7 「duは必ずしも『あなた』を意味しない！」
- 第4回 Lektion 7 つづき
- 第5回 Lektion 8 「コミュニケーションの決め手は、相手の名前をおぼえること」
- 第6回 Lektion 8 つづき
- 第7回 練習問題
- 第8回 中間試験
- 第9回 Lektion 9 「人間は『動物』ではない！」
- 第10回 Lektion 9 つづき
- 第11回 Lektion 10 「法は力なり！」
- 第12回 Lektion 10 つづき
- 第13回 練習問題
- 第14回 練習問題
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価（可否）は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間試験をすることもある。

【教科書】

大谷弘道 CD付き ドイツ人を知る9章+1 三修社

【備考】

【準備学習の指示】

- 初級ドイツ語で学んだこと（特に発音と文法）を繰り返して復習し、確実に身につけておくこと。
- ・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ文化論 <秋集>	
高 田 里恵子	4 単位

【講義概要】

1900年前後に書かれたドイツ学校小説を例にとりながら、さまざまな人間関係のありようを考察していく。具体的な作品（翻訳）に触れ、映像化された作品については、それを鑑賞する予定である。

【学習目標】

過去の歴史を知ることによって、現在のわたしたちの状況を批判的に見る視点を獲得することを目指す。

また、授業中に何回か短い文章を書いてもらう予定である。自分の意見を文章にまとめる力を身につけていくことも目標としたい。

【講義計画】

- 第1回 この講義のテーマ、全体の計画、試験のやり方、平常点のつけ方などを説明する。
- 第2回 ブルジョア社会と思春期の成立①
- 第3回 ブルジョア社会と思春期の成立①
- 第4回 ヨーロッパ、1900年前後の危機
- 第5回 ドイツ帝国、1900年前後の危機
- 第6回 教養市民層と教育
- 第7回 教養市民層と男らしさ
- 第8回 『春の目覚め』①
- 第9回 『春の目覚め』②
- 第10回 幼年学校の世界
- 第11回 幼年学校の世界
- 第12回 ナチスの学校改革①
- 第13回 ナチスの学校改革②
- 第14回 寄宿舎学校の比較①
- 第15回 寄宿舎学校の比較②
- 第16回 パブリック・スクールについて
- 第17回 ドイツ学校小説と友情①
- 第18回 ドイツ学校小説と友情②
- 第19回 ドイツ学校小説の主人公の特徴
- 第20回 学校という閉じられた世界①
- 第21回 学校という閉じられた世界②
- 第22回 学校という閉じられた世界③
- 第23回 軍隊と男らしさ①
- 第24回 軍隊と男らしさ②
- 第25回 軍隊、日本とドイツの違い①
- 第26回 軍隊、日本とドイツの違い②
- 第27回 軍隊、日本とドイツの違い③
- 第28回 全体のまとめ
- 第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない

【教科書】

教科書は使わない。講義の内容をうまくノートにまとめることが重要である。

【参考文献】

授業中に指示する

【備考】

【準備学習の指示】

授業で扱う文学作品のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることを勧める。直接には試験にはつながりなくとも、学生時代にさまざまな文学作品に触れることは重要である。

科目名 クラス 講義区分	
統計学総論 <春集>	
井 田 憲 計	4 単位

【講義概要】

前半では記述統計(=統計データの整理と記述の方法)について概説し、後半では推測統計(=確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法)の基礎的な考え方について、講義を進めていく。

【学習目標】

記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについての理解を深めることを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく予定だが、決して難しい作業ではない。「統計的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものである。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 記述統計と推測統計
 - 第3回 代表値(平均値、中央値、最頻値)
 - 第4回 いろいろな平均
 - 第5回 ちらばりの指標(分散・標準偏差、レンジ等)
 - 第6回 偏差値
 - 第7回 度数分布
 - 第8回 階級の設定
 - 第9回 ヒストグラム
 - 第10回 確率
 - 第11回 確率変数と確率分布
 - 第12回 密度関数
 - 第13回 正規分布
 - 第14回 母集団と標本
 - 第15回 標本平均と中心極限定理
 - 第16回 点推定
 - 第17回 平均の区間推定
 - 第18回 比率の区間推定
 - 第19回 検定の基本的な考え方
 - 第20回 平均の差の検定
 - 第21回 比率の差の検定
 - 第22回 多次元データの記述
 - 第23回 クロス集計
 - 第24回 相関係数
 - 第25回 回帰分析(その1)-最小2乗法
 - 第26回 回帰分析(その2)-区間推定と仮説検定
 - 第27回 順位相関係数
 - 第28回 分割表の検定
 - 第29回 期末試験
- (注:理解度に応じ、順序を入れ替えることがある)

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
[中間レポート](配分30%)は学期途中に一回実施、[出席・講義時間中の小テスト](配分30%)は不定期に実施する予定。

【教科書】

金子治平・上藤一郎編『よくわかる統計学Ⅰ基礎編Ⅰ』ミネルヴァ書房
(¥2400+税)

【参考文献】

郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ(入門ビジュアルサイエンス)』日本実業出版社(税込¥1365) ISBN:978-4534026620

【備考】

[準備学習について] 受講生には予習に加えて、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。

科目名 クラス 講義区分	
道徳教育の研究 <秋>	
徳 永 正 直	2 単位

【講義概要】

1958年に「道徳の時間」が特設されたが、今日に至るまでその評判はあまり良くない。授業で道徳を教えることは可能なのか?「道徳」授業に対するいくつかの批判を踏まえながら、授業を含む「道徳教育」のあり方を検討する。

【学習目標】

いくつかの「道徳」授業の方法を学び、価値多様化時代における道徳教育の課題を、学習指導要領との関連で考察する。生徒の道徳的判断力、道徳的心情を育成するに相応しい道徳教育のあり方を自分自身で考える力を養う。
モラルジレンマ授業、ディベートを取り入れた授業において教育的タクトが重要であることを認識する。

【講義計画】

- 第1回 「教育」の重要性と危険性
- 第2回 従来の「道徳」授業批判
- 第3回 アリス・ミラーの反教育学-何故道徳教育は否定されるのか。
- 第4回 アリス・ミラーの反教育学に対する批判と道徳教育の必要性
- 第5回 日本における道徳教育の歴史
- 第6回 道徳教育の原理-人間の根本悪とカントの道徳原理
- 第7回 価値多様化時代における道徳教育の課題-対話の原理
- 第8回 学習指導要領の解説と対話による「道徳」授業の可能性
- 第9回 ディベートによる生命倫理の授業①安楽死問題
- 第10回 ディベートによる生命倫理の授業②体外受精と代理母問題
- 第11回 道徳性の発達について-ピアジェとコールバーグ
- 第12回 コールバーグ理論に基づくモラルジレンマ授業
- 第13回 モラルジレンマ授業のモデルを視聴
- 第14回 モラルジレンマ授業の意義と問題点-教育的タクトの重要性
- 第15回 総括と試験

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
講義で習得した道徳教育に関する基礎知識を確認するための試験(80%)とレポート(20%)を目安として評価する。

【教科書】

徳永・宮嶋・堤・林・榊原 道徳教育論-対話による対話への教育ナカニシヤ出版

【参考文献】

徳永正直『教育的タクト論-実践的教育学の鍵概念』(ナカニシヤ出版、2004年)

科目名 クラス 講義区分	
東洋史 01<春集>	
今 澤 浩 二	4 単位

【講義概要】

この講義では、中学・高校において歴史教育に従事することをめざす学生を想定し、東洋史をいかに学び教えるのかということに重点を置いて、授業を進めていく。

中国とその周辺地域だけでなく、東洋史において見過ごされがちなイスラーム世界も取り上げ、その歴史的役割の重要性についても考えたい。

【学習目標】

アジア各地の歴史は、それぞれ個別に展開したのではなく、相互に影響を与えつつ発展していったという点に理解を促し、それを通じて、歴史を見る目を養い、歴史を学び教える意義について考えることを主要な目標とする。

【講義計画】

- 第1回 古代オリエント文明①（メソポタミア文明）
- 第2回 古代オリエント文明②（古代オリエントの統一）
- 第3回 古代オリエント文明③（ヘレニズム時代）
- 第4回 南アジアの古代文明①（インダス文明）
- 第5回 南アジアの古代文明②（古代インドの諸王朝）
- 第6回 中国の古代文明①（殷・周）
- 第7回 中国の古代文明②（春秋戦国時代）
- 第8回 中国の古代文明③（秦・漢）
- 第9回 東アジア世界の形成①（三国時代～南北朝時代）
- 第10回 東アジア世界の形成②（隋）
- 第11回 東アジア世界の形成③（唐）
- 第12回 東アジア世界の形成④（唐代の社会・文化）
- 第13回 東アジア世界の形成⑤（宋）
- 第14回 東アジア世界の形成⑥（宋代の社会・文化）
- 第15回 東アジア世界の形成⑦（モンゴル帝国～元）
- 第16回 イスラーム世界の成立と発展①（イスラーム教の成立）
- 第17回 イスラーム世界の成立と発展②（イスラーム世界の発展）
- 第18回 イスラーム世界の成立と発展③（イスラーム文明）
- 第19回 アジアの繁栄①（西・南アジア）
- 第20回 アジアの繁栄②（明）
- 第21回 アジアの繁栄③（清）
- 第22回 アジアの動揺①（西アジア）
- 第23回 アジアの動揺②（南アジア）
- 第24回 アジアの動揺③（東アジア）
- 第25回 アジアの民族運動①（東アジア）
- 第26回 アジアの民族運動②（西・南アジア）
- 第27回 第1次世界大戦とアジア
- 第28回 第2次世界大戦とアジア
- 第29回 まとめ
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%

初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
東洋史 02<秋集>	
原 山 煌	4 単位

【講義概要】

中国とその周辺を対象地域とする。そこで繰り上げられた歴史事象を、「中華」と「夷狄」との関係性という観点から通観してみる。それは、世界史の展開に大きな影響を与えた、農耕民と遊牧民の相克ということでもある。中国を中心とする一帯では、「自己」と「他者」はどのように弁別されていたのであろうか。実はこの問題は、古くは中華思想の形成に、新しくは中華人民共和国のありようにも強く関わっているのである。

【学習目標】

歴代の中国の王朝とモンゴル高原に興亡した騎馬遊牧民の関係を時代にそって理解してもらう。歴史の展開とともに、「漢民族」の意味あい自体が変質して行くし、遊牧民の側でも中国を圧倒するための知恵を身に付けて行くのであるが、そうしたことを具体的史料によって理解してもらおうと考えている。

下に記す「小テスト」で質問を受け付け、次回授業冒頭に回答する。双方向授業を実現するよう努力したい。

【講義計画】

- 第1回 この授業のオリエンテーション
- 第2回 アジアの地理的環境
- 第3回 中国の地理的環境
- 第4回 中国古代における「中華」と「夷狄」
- 第5回 遊牧という暮らし
- 第6回 騎馬遊牧民出現
- 第7回 中国世界と匈奴
- 第8回 匈奴、漢を圧す
- 第9回 漢の武帝と匈奴
- 第10回 武帝以後の状況
- 第11回 五胡十六国時代の意味
- 第12回 トルコ系遊牧民の時代：突厥
- 第13回 遊牧民族の族祖伝承
- 第14回 中央アジアのトルコ化について
- 第15回 中間テスト
- 第16回 モンゴルの出現
- 第17回 チンギス・ハンの出現まで
- 第18回 チンギス・ハンの事跡
- 第19回 チンギス・ハンの子や孫
- 第20回 モンゴルが歴史上最大の支配者になれた事情
- 第21回 元朝とフビライ・ハン
- 第22回 モンゴル世界帝国の世界史上の意義
- 第23回 モンゴルは滅亡したのか？
- 第24回 2つの万里の長城
- 第25回 モンゴル帝国が清朝を形成させた？
- 第26回 清朝における異民族統治
- 第27回 中華人民共和国の民族政策
- 第28回 噴出する「少数民族」の不満
- 第29回 まとめ
- 第30回 予備日

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 20%

毎回授業終了時に小テストを行ない、出席状況を把握するとともに、授業の理解度を問う。小テストの内容は成績評価の30%を占めるので、しっかりとノートを取りながら聴講することが是非必要である。この小テストには質問を書き込むことができ、必要な問いに対しては次回授業の冒頭に答えることとする。

【教科書】

特に指定しない。頻繁に配布資料を提供する。

【参考文献】

授業中に折にふれて紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
東洋美術史 <春集>	
林 宏 作	4 単位

【講義概要】

美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国芸術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国芸術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。

【学習目標】

上記「講義概要」に対応する内容を習得し、中国の絵画を理解することを学習目標とする。

【講義計画】

- 第1回 ・ガイダンス
・授業計画について
- 第2回 絵画観賞－山水画
- 第3回 絵画観賞－花鳥画
- 第4回 線条芸術の基礎
- 第5回 新石器時代の絵模様
- 第6回 長沙楚墓の帛画
- 第7回 馬王堆の帛画
- 第8回 顧愷之について
- 第9回 『画雲台山記』について
- 第10回 宗炳と王微
- 第11回 『古画品録』と六法
- 第12回 隋・唐の人物画
- 第13回 「曹衣出水」と「呉帯当風」
- 第14回 山水画の起源
- 第15回 李思訓と王維
- 第16回 中間試験
- 第17回 唐の山水画
- 第18回 主山堂々について
- 第19回 范寛・李成・郭熙について
- 第20回 董源・巨然について
- 第21回 宋代の花鳥画①
- 第22回 宋代の花鳥画②
- 第23回 宋代の花鳥画③
- 第24回 宋代の花鳥画④
- 第25回 宋代の花鳥画⑤
- 第26回 元末四大家①
- 第27回 元末四大家②
- 第28回 宮廷絵画の再建
- 第29回 南北二宗論
- 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

【教科書】

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

参考文献は適時、紹介する。

【備考】

【準備学習の指示】

授業中に指示された参考文献を使って予習・復習して下さい。

科目名 クラス 講義区分	
特別活動論 01<春> 特別活動論 02<秋>	
橋 野 藏	2 単位

【講義概要】

昨年末文化省は平成20年度「児童生徒の問題行動調査」の結果を公表、朝刊に次のような記事が報じられた。『いじめ減少も暴力行為最多・中学生4万件を超える』等と。大阪府で、沖縄県で中学生や高校生による暴力事件が相次ぎ死亡や重傷者を出した。「子供たちが感情を抑えられない」「規範意識の低下」などの分析も報じられているが、どうして問題行動増加に歯止めがかからないのだろうか。事件のたびに“通達”や“指導”が公的機関から発せられるが、その令を受け指導に当たるのは現場の教師である。ますます“先生”に期待されるところが大きくなる中で、特活授業においてこれらの課題に解決の糸口や接点がないものか探してみたい。

学習指導要領は、①集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。②集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を養う。③人間としての自覚を深める。……の目標を掲げている。この目標を具現化していくためには、教師自身が目標の諸能力を幅広く身につける必要がある。本授業では学校現場の事例を教材に班活動も取り入れ、また近隣の学校を訪問し現場実態をつかみ、今日的な課題に対する知識理解も身に付け深めたい。

【学習目標】

- ・学習指導要領に基づき特別活動の指導法に関する基礎基本を習得し、実践し 得る能力を身につける。
- ・班活動や“三分発表”などを通して、教師としての資質を磨き身につける。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
・学習概要、計画、班編成など
- 第2回 学習指導要領による「特活」の位置づけ
- 第3回 中学生・高校生の位置
- 第4回 学級経営と学級活動
- 第5回 生徒会活動
- 第6回 学校行事・模擬学年会議
- 第7回 今日的課題と特活・不登校、学級崩壊
- 第8回 今日的課題と特活・校内暴力
- 第9回 今日的課題と特活・心を育てる
- 第10回 進路指導(1)
- 第11回 進路指導(2)
- 第12回 班別プレゼンテーション
- 第13回 学校現場訪問 ※訪問日は未定、(上記の講義内容と入れ替わることがある)
- 第14回 学校現場訪問 ※訪問日は未定、(上記の講義内容と入れ替わることがある)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

期末レポート、小レポート、授業内での活動、出席状況など総合して行う。但し2／3以上の出席がない場合は評価しない。

【教科書】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントなど配付する。

【参考文献】

小中学校・高等学校学習指導要領
新しい特別活動指導論(ミネルヴァ書房)

【備考】

【準備学習の指示】

受講生は小・中・高校時代を通過してまだ日が浅く、学校時代の思い出も記憶に新しい。そこで各回のテーマに沿って事前に自分自身の体験・経験などを整理しておくことにより、より一層具体的に講義内容を理解し把握することができる。そこで、

- ・自分の学生時代はどうであったか、得たもの、努力はしたが得ることができなかったもの等を小・中・高校別に整理しておく。具体例は事前に指示する。
 - ・学級活動、生徒会活動、学校行事など学校・学年としての取り組み、自分自身の参加態度や意欲はどうであったか。
 - ・不登校、学級崩壊、校内暴力などの実例に出会った経験がある場合は、その様子と指導者(教師)のとした対応など思い出して簡単に記録するとともに、今のあなたの感想をまとめておく。
 - ・中、高校時代に受けた進路指導の総括。
 - ・ボランティア活動体験の有無、これからの姿勢について。
 - ・現場体験学習として小・中学校を参観訪問するが、その際何を学んできたのか、尋ねたいことや疑問などをまとめておく。
- 参加型学習をできるだけ取り入れ、本講座の受講生は全員教職を第一志望としているとの前提で授業を進める。

科目名 クラス 講義区分	
都市社会学 <春集>	
竹 中 英 紀	4単位

【講義概要】

ヨーロッパの近代社会学に端を発し、20世紀アメリカの「シカゴ学派」において確立をみる都市社会学の系譜と、その後の展開について、詳細な解説をこころみる。また、現代および歴史上の世界と日本の都市問題をとりあげ、それらの問題が、社会的にはどのようにとらえられるかを考える。

【学習目標】

都市社会学の学説史に関する基本的な知識の習得と、都市問題に対する社会的な分析力・表現力の獲得。

【講義計画】

- 第1回 社会現象としての都市(1) [教科書：はじめに]
- 第2回 社会現象としての都市(2) [Ⅱ]
- 第3回 歴史のなかの都市(1) [第1章]
- 第4回 歴史のなかの都市(2) [Ⅱ]
- 第5回 シカゴ学派の都市研究(1) [第2章]
- 第6回 シカゴ学派の都市研究(2) [Ⅱ]
- 第7回 アーバンイズムの理論と批判(1) [第3章]
- 第8回 アーバンイズムの理論と批判(2) [Ⅱ]
- 第9回 社会的ネットワークと下位文化(1) [第4章]
- 第10回 社会的ネットワークと下位文化(2) [Ⅱ]
- 第11回 都会人のパーソナリティ(1) [第5章]
- 第12回 都会人のパーソナリティ(2) [Ⅱ]
- 第13回 マルクス主義と都市社会学(1) [第6章]
- 第14回 マルクス主義と都市社会学(2) [Ⅱ]
- 第15回 日本の都市社会学(1) [第7章]
- 第16回 日本の都市社会学(2) [Ⅱ]
- 第17回 グローバリゼーションと都市(1) [第8章]
- 第18回 グローバリゼーションと都市(2) [Ⅱ]
- 第19回 都心とインナーエリア(1) [第9章]
- 第20回 都心とインナーエリア(2) [Ⅱ]
- 第21回 郊外社会とサバーバンイズム(1) [第10章]
- 第22回 郊外社会とサバーバンイズム(2) [Ⅱ]
- 第23回 町内会・自治会の研究(1) [第11章]
- 第24回 町内会・自治会の研究(2) [Ⅱ]
- 第25回 コミュニティの理論と政策(1) [第12章]
- 第26回 コミュニティの理論と政策(2) [Ⅱ]
- 第27回 現代都市と社会階層(1) [第13章・第14章]
- 第28回 現代都市と社会階層(2) [Ⅱ]

【成績評価の方法】

試験 100%

授業時間内に実施する小テスト(40%)と、学期末試験(60%)を総合して、成績を評価する。

【教科書】

高橋勇悦監修／菊池美代志・江上渉編 改訂版 21世紀の都市社会学 学文社

【参考文献】

- [1] 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス4 都市的世界』世界思想社、2008年。
- [2] 大谷信介『〈都市的なもの〉の社会学』ミネルヴァ書房、2007年。
- [3] C・S・フィッシャー(松本康・前田尚子訳)『都市的体験』未来社、1996年。

【備考】

【準備学習の指示】

授業計画を参照して、教科書の該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。また新聞や書籍などに加えて、大阪という大都市での実生活を通して、都市社会のさまざまな問題に対する関心を持つこと。

科目名 クラス 講義区分	
都市政策論 <通期>	
松 本 誠	4単位

【講義概要】

「都市の爆発と再生～都市づくりの担い手と分権・自治の仕組み」

戦後日本の都市政策は、急激な都市への人口集中と都市構造の過密・高度化によって、国土の均衡を崩し、農山村の破壊をもたらし、都市の暮らしの環境悪化をもたらしてきた。それはまた、ハード面でもソフト面でも災害に弱い都市の構造をつくりだしてきた。

このような都市の“爆発”のなかで、住民・市民と自治体は、どのような政策を展開してきたのか。都市の再生へ、どのような対応をしてきたのか。

今日直面している分権型都市のあり方を踏まえて、21世紀の都市と自治体のあり方を展望しながら、新しい都市政策を考える。同時に、住民・市民が新しい都市づくりに、どのように主体的な役割を果たすべきかについても、実践的な課題を探りたい。

【学習目標】

以下の項目について、講義を中心に状況認識と課題を把握することに努める。各項目について2～4回程度の講義回数を予定しているが、進捗状況によって適宜変更することがある。

講義には毎回、担当者からレジュメ等の資料を配布して進める。毎回の講義では出席カードを利用して、質問や感想等を求め、次の講義冒頭に質問に答える。

【講義計画】

<オリエンテーション>

- 第1回 現代の都市政策と都市づくりの担い手である住民・市民をどうとらえるか。
- 第2回 都市公害と住民運動①
戦後日本の公害の歴史を振り返る。高度経済成長の裏面で拡大した産業公害は何をもたらしたか。
- 第3回 都市公害と住民運動②
産業公害から開発、都市公害へ焦点が移り変わった中で問われた「豊かな社会」の都市づくりと暮らしの見直し。
- 第4回 革新自治体と都市政策①
革新自治体の登場とその背景を探る。
- 第5回 革新自治体と都市政策②
革新自治体の政策と退潮。新しい地方の時代の芽生え。
- 第6回 革新自治体と都市政策③
改革派首長の登場とその政治手法。
- 第7回 中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味①
過疎と過密の同時進行と農山村の崩壊。
- 第8回 中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味②
農山村の変貌と第2次過疎化現象。80年代以降のまちおこし、村おこし運動。
- 第9回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開①
戦後日本の民衆運動史の流れを振り返る。
- 第10回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開②
70年代以降の市民・住民運動の芽生え。
- 第11回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開③
70年代型の市民・住民運動と90年代型の市民住民運動の特徴。
- 第12回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開④
新しい市民社会へのうねりを90年代以降に見る。世界的規模での変革のうねり。
- 第13回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開⑤
「公共」概念の変革と新しい公共を担う市民活動の登場。
- 第14回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開⑥
新しい労働観と生きがい刺激する市民活動。
- 第15回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開⑦
市民主導の政治と行政への胎動。
- 第16回 住民主体のまちづくりの試行①
なぜ、いま「住民参加」なのか。住民参加から住民主体への展開。
- 第17回 住民主体のまちづくりの試行②
「参加」の態様と段階。市民参加の類型と参加度の段階。
- 第18回 住民主体のまちづくりの試行③
まちづくりの課題をどのように見出すか。住民がまちづくりに取り組むきっかけと、ひと、もの、しくみづくり。
- 第19回 住民主体のまちづくりの試行④
まちの価値の発見と創造。具体的な実践事例から学ぶ。
- 第20回 住民主体のまちづくりの試行⑤

まちづくりの実践論。住民主体のまちづくりへの4つのステップ。ある地域での活動事例から考える。	
第21回	地方分権と住民自治① 地方分権とは何か。地方分権時代と分権型社会。
第22回	地方分権と住民自治② 地方分権と住民自治。地方自治の本旨と、住民自治を保障する直接行政参加権。
第23回	地方分権と住民自治③ これからの分権改革。分権型社会の構図と市町村合併。
第24回	阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ① 14年前の大震災が問いかけたもの。集中依存型社会から自律分散型社会へ。経済効率優先から、安全・安心・ゆとりの共生社会へ。
第25回	阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ② 自律的コミュニティの形成と住民自治。震災復興下で芽生えた市民活動の新しい展開。
第26回	阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ③ サステイナブル・コミュニティと新しい都市づくり。持続可能な都市づくりへの試みと「サステイナビリティ」。
第27回	閑話休題（質問とレポート課題への助言）
第28回	参画・協働と新しい地方自治の模索① 市民「参画」と「協働」の新しい展開。市民参画をめぐる新しいうねりの系譜。
第29回	地域内分権から自治を鍛えなおす 市民主権への道程と「小さな自治」の仕組みづくり。
第30回	全体の総括と補充。
【成績評価の方法】	
試験 0% レポート 80% 出席 20%	
期末にレポートの提出を求めるほか、期中にも中間レポートを課し、参考評価とする。また、毎時間出席カードを兼ねたミニレポート等によって評価を補足する。	
【教科書】	
毎時間、担当者から配布するレジュメによって講義を進める。	
【参考文献】	
講義中に適宜紹介する。	

科目名 クラス 講義区分	
図書及び図書館の歴史 <秋>	
垣 口 弥生子	2単位
【講義概要】	
本講義では、多様な形態をとる図書の歴史を世界史的規模で概観し、それを収集・整理・保存してきた図書館の歴史を考察する。そうして、とりわけ図書館が多数の市民に開放されていく近代図書館の発達過程を思想的、制度的に検証する。	
【学習目標】	
人類の文明の遺産というべき文字の発明に始まる図書の歴史、それを収集・整理・保存してきた図書館の歴史について知り、これからの図書館像について思いめぐらすこと。	
【講義計画】	
第1回	オリエンテーション
第2回	比較文明の視座
第3回	文字、そして記録の誕生
第4回	パピルス、羊皮紙その他の書写材料
第5回	古代の書物と図書館
第6回	紙の発明と伝播
第7回	中世の書物と図書館
第8回	印刷術の発明
第9回	印刷術の東西比較
第10回	近世の書物と図書館(1)フランスの場合
第11回	近世の書物と図書館(2)イギリスの場合
第12回	近代公共図書館の誕生と発展(1)アメリカ
第13回	近代公共図書館の誕生と発展(2)アメリカ
第14回	いま、図書館の可能性とは
第15回	試験
【成績評価の方法】	
試験 50% レポート 30% 出席 20%	
レポートの提出と期末試験（筆記）の成績で評価する。出席状況も加味。	
【教科書】	
プリント教材を配布。	
【参考文献】	
*参考文献は授業の内容の補足として各自で読んでおくこと。	
1.『図書館の話』森耕一著 至誠堂	
2.『粘土に書かれた歴史』E. キエラ著 板倉勝正訳 岩波新書	
4.『書物の出現』リュシアン・フェーブル, アンリ＝ジャン・マルタン共著 宮下志朗ほか訳 筑摩書房	
5.『イギリス近代出版の諸相』清水一嘉著 世界思想社	
6.『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会	

科目名 クラス 講義区分	
図書館概論 <春>	
山 本 順 一	2単位

【講義概要】

貧富の格差が情報格差と連動する‘生涯学習社会’において、伝統的な図書・雑誌の提供からインターネットの世界につながり、常時開設されている‘民衆の大学’である公共図書館を念頭に置きつつ、歴史的文脈のなかに位置づけ、コミュニティが擁する諸機関と協働する図書館と館種を超えた図書館ネットワークの現代的意義と役割、未来像を論じる。そして、他の先進諸国では、掛け声にとどまらず、自他共にその専門性を認識されている職業、ライブラリアンについてもふれることにしたい。

【学習目標】

大学生として、また市民として、生涯学習の基盤施設である‘図書館’について親近感を抱くようになっていただくとともに、世界に通用する‘図書館の理論と実践’に関する基礎的知識、常識を身につけていただくことを学習の目標とした。

【講義計画】

- 第1回 統計からみる世界の図書館、日本の図書館： 図書館の現状と動向
- 第2回 21世紀の図書館の姿： ハイブリッド・ライブラリー
- 第3回 市民が図書館に期待する現代的機能
- 第4回 政治経済社会が図書館に求めるもの
- 第5回 国民主権、住民参加、自己実現と図書館： 知的自由Ⅰ
- 第6回 知識情報を安全に入手ためのライブラリー・プライバシー： 知的自由Ⅱ
- 第7回 クレオパトラと図書館： 図書館の歴史Ⅰ
- 第8回 グーテンベルクと図書館： 図書館の歴史Ⅱ
- 第9回 ベンジャミン・フランクリンと図書館： 公共図書館への胎動からの発展過程
- 第10回 Googleと図書館の将来
- 第11回 多様な構成要素からなる知と情報の世界： ライブラリー・ワールド
- 第12回 日本では時給850円の哀しき専門職、ライブラリアン
- 第13回 図書館にかかわる理論と実践を支えるべき諸々の組織、団体
- 第14回 心優しい貧者の未来への投資： 図書館行政に期待されるもの
- 第15回 高度情報通信ネットワーク社会における図書館の運命： 図書館の課題と展望

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 10% 出席 20%

例年通り、復習の成果を確認するために、毎回講義の最初にミニレポートに相当するクイズを実施し、採点后返却する。

【教科書】

藤野幸雄ほか 図書館情報学入門 有斐閣

【備考】

準備学習の指示等： 事前にテキストの関係部分を予習していることを前提に講義を行うので、テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
図書館経営論 <秋>	
志保田 務	2単位

【講義概要】

公共図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設などの経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態などについて解説する。

【学習目標】

図書館経営の概念と実際について把握することを図る。

【講義計画】

- 第1回 図書館経営とはなにか： 図書館行政と応用経営学のクロスポイント
- 第2回 図書館における「経営」論
- 第3回 図書館の法制度1： 公共図書館と図書館法
- 第4回 図書館政策と図書館行政
- 第5回 図書館に至る行政組織体系
- 第6回 地方行政と図書館
- 第7回 図書館内の組織
- 第8回 図書館における経営： 図書館の要素と経営の要素
- 第9回 図書館におけるマーケティング
- 第10回 図書館サービスと図書館経営
- 第11回 図書館サービス計画と予算の確保
- 第12回 図書館サービスの調査と評価
- 第13回 図書館の法制度2： 読書推進関係
- 第14回 図書館の法制度3： 他館種の図書館に関する法律
- 第15回 総合

【成績評価の方法】

試験 85% レポート 15%

出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

【教科書】

後に指示する。

科目名 クラス 講義区分	
図書館サービス論 <秋>	
山 本 順 一	2 単位

【講義概要】

コミュニティ総体とそれを構成する多様な属性をもつ個々の市民の情報ニーズに応えるとともに、それを掘り起こし、課題解決に資する種々の図書館サービスを解説し、それぞれのサービスを展開するとき必要とされるライブラリアンが備えなければならない姿勢、知識と技法を伝えることがこの講義の内容となる。

【学習目標】

デジタル・ネットワーク社会における基本的な図書館サービスについて理解するほか、地域特性に応じた図書館サービスのあり方に関する認識を深めることがこの科目の目標である。

【講義計画】

- 第1回 図書館サービスの社会的意義と構造：パブリックサービスとテクニカルプロセス
- 第2回 ライブラリアンに求められる姿勢および知識とスキル
- 第3回 図書館サービスの歴史： 保存機能から利用機能の高度化へ
- 第4回 図書館サービスのメニューと基本的サービス
- 第5回 コミュニティの構造分析とサービス展開戦略（イベントを含む）
- 第6回 年齢層別サービス： ブックスターから高齢者サービスまで
- 第7回 障害者サービス①： （国際条約、国内法を踏まえ）視覚障害を中心に
- 第8回 障害者サービス②： 知的障害、学習障害など
- 第9回 コミュニティの国際化と多文化サービス
- 第10回 レファレンスサービスからレフェラルサービス
- 第11回 レファレンス・プロセス、パスファインダー
- 第12回 課題解決型サービスの登場と展開
- 第13回 デジタル・ネットワーク・サービスと情報発信の充実
- 第14回 図書館サービスと著作権制度①
- 第15回 図書館サービスと著作権制度②

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 10% 出席 20%
例年通り、復習の成果を確認するために、毎回講義の最初にミニレポートに相当するクイズを実施し、採点後返却する。

【教科書】

国際図書館連盟公共図書館分科会WG編 理想の公共図書館サービスのために 日本図書館協会

【備考】

準備学習の指示等： 事前にテキストの関係部分を予習していることを前提に講義を行うので、出席にあたり事前に該当箇所を読んでおくこと。

科目名 クラス 講義区分	
図書館資料論 <春>	
志保田 務	2 単位

【講義概要】

図書館を構成する要素のうち、もっとも特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を始め各種資料（メディア）について検討するが、資料の電子化に注目し、電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。

【学習目標】

図書館資料の概要の把握。出版・流通から、図書館における情報・メディアの収集、「収集の自由」に及ぶ。

【講義計画】

- 第1回 図書館資料論の概説
- 第2回 図書館資料の種類
- 第3回 資料の生産と流通
- 第4回 資料の選択
- 第5回 資料選択論
- 第6回 図書館の自由
- 第7回 蔵書構成
- 第8回 資料の受入
- 第9回 資料の保存
- 第10回 電子資料、電子情報
- 第11回 ネットワーク
- 第12回 インターネット
- 第13回 著作権
- 第14回 公共貸与権
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 85% レポート 15% 出席 0%
出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

【教科書】

志保田務・山本順一 資料・メディア・総論 学校図書館

科目名 クラス 講義区分		
図書館特論 <秋>		
藤 間 真		2単位

【講義概要】

現代の図書館の色々な側面と問題について学内外の講師から話を伺います。

各回の具体的な内容と担当者はシラバス執筆時(2009年12月)現在、交渉中です。確定した段階で担当者のwebサイト(<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma>)にて公開する予定ではありますが、確認を希望する諸君は担当者までメールで問い合わせてください。アドレスは、[m_tohma\[at\]andrew.ac.jp](mailto:m_tohma[at]andrew.ac.jp)([at]を@に替えてください。)

なお、諸事情許せば、学外の図書館に見学に行く回を盛り込みたいと考えています。この場合、土曜日に振替る可能性が大了。この点の詳細も第一回に扱います。

【学習目標】

現代の図書館の色々な側面と問題について把握してもらうことが、本講義の目的です。

シラバス執筆時(2009年12月)現在、大半の時間を利用者との接点に関する色々な側面を扱う予定ですが、変更の可能性もあります。

【講義計画】

第1回 各回の題目・講師はシラバス執筆時(2009年12月)現在、交渉中なので、下記はあくまで予定です。確定した段階で担当者のwebサイト(<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma>)にて公開する予定です。

第一回は講義全体の方向性を扱います。受講希望者は、かならず出席してください。万やむを得ず欠席する場合は、事前に担当者にメールで相談してください。アドレスは [m_tohma\[at\]andrew.ac.jp](mailto:m_tohma[at]andrew.ac.jp)([at]を@に替えてください。)

第2回 交渉中
第3回 交渉中
第4回 交渉中
第5回 交渉中
第6回 交渉中
第7回 交渉中
第8回 交渉中
第9回 交渉中
第10回 交渉中
第11回 交渉中
第12回 交渉中
第13回 交渉中
第14回 交渉中
第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席 100%

出席が100%になっていますが、物理的に出席していれば単位認定するわけではありません。毎回の講義内容を元に執筆するレポートで採点するという意味での「100%」です。

また、出席が100%になっていますが、遅刻については厳しく減点します。

【参考文献】

講義の進展状況に応じて指示します。

【備考】

【準備学習】

色々な図書館の実態について理解を深めておくと、興味深く講師の話を聞くことができます。

なお、予習はあまり要求しませんが、きちんと復習することは必要となります。

・インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分		
日中ビジネス論 <秋>		
唐 成		2単位

【講義概要】

この講義は、日本を代表する金融機関である三菱東京UFJ銀行からの講師派遣によるインテグレーション講座です。「金融機関からみる日中ビジネス」をテーマとし、日本と中国それぞれのビジネス事情について、金融業界との関連も含めて解説していただきます。

講義は、大きく以下の内容からなっています。(1)銀行・証券・クレジットなどの金融関連業務、およびそれらのくらしとの関わりについて。(2)日本と中国それぞれの経済状況と両国間の経済関係、および中国ビジネスの実際について。(3)企業と公共部門のマネジメントについて。

本講義の講師陣は、金融あるいは中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家の方々です。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く金融業界に関心のある学生にも興味を持てる内容となるでしょう。

【学習目標】

講義は各テーマについて、第一線で活躍中ないし経験豊富な実務家教員によって進められます。

本講義を通して、日本経済と中国経済との関わりや日本の対中国ビジネスへの関心を深めていくことです。

また、金融サービスなどの事例研究では、ビジネスへの理解力を高め、業界研究を極めていくことにあります。

【講義計画】

第1回 下記は2009年度秋学期の授業内容です。

2010年度もほぼ同じ内容を予定していますが、講師の都合により変更もあります。秋学期開始前に、あらためて日程とテーマを提示しますので確認してください。

就職するならこんな会社

～堺の地場企業～／～企業人としての心構え～

第2回 中国ビジネスの実務
第3回 日本経済と中国経済
第4回 公共経営 (パブリックマネジメント)
第5回 外食経営
第6回 中国の現状 1)～もしもあなたが中国に駐在したら～
第7回 中国の現状 2)～もしもあなたが中国に駐在したら～
第8回 ライフステージと金融機関の関わり
第9回 ビジョン志向経営の事例研究
第10回 ビジネス発想法入門
第11回 証券業務の現状
第12回 外国為替取引について
第13回 リースファイナンスの現状
第14回 激動する金融界の現状
第15回 講義のまとめ

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 20% 出席 40%

【教科書】

特になし。資料配付します。

【備考】

授業中に私語をするなど、聴講の態度が悪いと判断される場合は、ただちに退室を命ずる。

悪質な場合、その場で「不合格」を宣告することがありますので、くれぐれも注意してください。

・インテグレーション科目
・02～05E生は読替一覧参照
・06～09生対象

科目名 クラス 講義区分	
日中関係論 <秋>	
副 島 昭 一	2単位

【講義概要】

19世紀末から20世紀前半は基本的に不平等で不正常かつ戦争の時代といえる。20世紀後半は世界的規模での冷戦に日中関係も大きく規定された。国交が不正常な状態にあった時期から正常化されて以降も、戦争時代の種々の問題が未解決であった。ある意味では現在でも未解決の部分があるといえる。

授業では近代以降の日中関係の基本的な流れを時期ごとに整理していく。

【学習目標】

これからの日本を考えるとき、日中関係は非常に重要な意味を持っているが、必ずしも相互の理解が十分とはいえない状況がある。日中関係の現在を知るには過去からの流れの中で位置づける必要がある。過去の歴史の問題も決して過ぎ去った問題ではなく、歴史の問題が現在の大きな問題になることがしばしば見られる。

このような日中関係の中で、一時的表面的なことがらだけで判断すると、思わぬ相互認識のずれや誤解が生じることがある。

この講義では20世紀前半から現在までの日中関係を学び、現在および将来にわたる日中関係の基本的理解を得ることを目標にする。

【講義計画】

- 第1回 日本の近代と中国
- 第2回 日清戦争と下関条約
- 第3回 日露戦争と中国東北
- 第4回 辛亥革命・孫文と日本
- 第5回 国民革命の進展と日本
- 第6回 日中戦争の原因と経過 1
- 第7回 日中戦争の原因と経過 2
- 第8回 中国の国民国家形成
- 第9回 中華人民共和国成立から国交は正常化まで
- 第10回 改革開放期の日中関係、日中経済関係の深まりと政治的軋轢
- 第11回 賠償、戦争責任などの問題 1
- 第12回 賠償、戦争責任などの問題 2
- 第13回 日中関係と国民感情
- 第14回 アジアの中の日中関係
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 0% 出席 30%

受講生数によっては毎回の出席確認はしないので、上記の数字は変動することもある。授業の最初にコメント用紙を配布して、最後に回収する。したがって遅刻者はコメント用紙を提出できない場合もある。

また名簿をもとに授業中に質問をし、その答え方を評価することもある。

なお受講生数が非常に多い場合の成績評価は試験のみによる。

【教科書】

池田・安井・副島・西村編 図説中国近現代史 法律文化社

【参考文献】

毛里和子『日中関係——戦後から新時代へ——』（岩波新書、740円＋税）
 笠原十九司『南京事件論争史』（平凡社新書、840円＋税）
 丸川哲史『日中一〇〇年史』（光文社新書、760円＋税）
 『重慶爆撃とは何だったのか——もうひとつの日中戦争』（高文研、1,800円＋税）

【備考】

【準備学習の指示】

参考文献のうちの1冊以上を読んでおくことが望ましい。
 ・06～10生対象

科目名 クラス 講義区分	
日中ビジネス実務 <春>	
伊 藤 彰 一	2単位

【講義概要】

中国でビジネスを行うにあたっての基本的な事項についての講義を行う。中国の持つ特殊性について理解を深め、中国勤務を想定して基本事項を習得する。日本のビジネスマンが世界の市民として中国のみならず、海外で果たすべき役割について理解する。

【学習目標】

ビジネス社会における、中国担当者としての基礎的な能力を身につけることを学習目標とする。

【講義計画】

- 第1回 中国のビジネス環境 1
- 第2回 中国のビジネス環境 2
- 第3回 中国のビジネス環境 3
- 第4回 日系企業の中国での活動 1
- 第5回 日系企業の中国での活動 2
- 第6回 中国の特殊性 1
- 第7回 中国の特殊性 2
- 第8回 日本と中国の関係 1
- 第9回 日本と中国の関係 2
- 第10回 中国における会社設立 1
- 第11回 中国における会社設立 2
- 第12回 ビジネスリスク 1
- 第13回 ビジネスリスク 2
- 第14回 円と元

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%

【教科書】

必要に応じて印刷物を配布する。

【参考文献】

講義の進捗状況に応じて適宜参考文献を紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
日本近代史 <春集>	
島 田 克 彦	4 単位

【講義概要】

本講義では、「巨大都市大阪から見る日本近代の歴史」というテーマのもと、まず前半では、明治期の特徴的な諸地域を取り上げ、これを素材としながら、明治期における大阪と周辺地域の景観や社会構造、工業化の進展、日清・日露戦争と産業革命などについて見ていく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会の発展と矛盾を論じつつ、第一次世界大戦と経済発展、大正デモクラシーと社会運動、新しい都市政策の登場、昭和恐慌と満州事変、戦時体制下の経済・社会の動向などについて見ていく。

【学習目標】

近年、研究が進展しつつある都市史研究の成果をふまえ、巨大都市大阪やその周辺地域の歴史的なあゆみを素材としながら、明治維新から終戦にいたるまでの日本の近代史の基本的な流れをとらえ、その特徴を理解する。

【講義計画】

- 第1回 都市大阪を歴史的に捉える視点 ―開講にあたって―
- 第2回 居留地の開設と大阪の人々
- 第3回 軍隊の創設と大阪
- 第4回 学校の誕生と地域社会
- 第5回 帝国憲法体制と地方制度 ―大阪市の成立―
- 第6回 企業勃興―大阪の紡績会社と鉄道資本―
- 第7回 日清戦争と大阪
- 第8回 日露戦争と大阪
- 第9回 明治期大阪の工業生産
- 第10回 産業革命期の地域社会
- 第11回 淀川の治水と大阪築港
- 第12回 社会問題の発生
- 第13回 明治期大阪の都市下層社会
- 第14回 植民地帝国日本と大阪
- 第15回 前半のまとめ
- 第16回 第一次世界大戦と大阪
- 第17回 米騒動と地域社会
- 第18回 大正デモクラシーと大阪のジャーナリズム
- 第19回 社会運動の高まりから普通選挙へ
- 第20回 都市社会問題と新しい都市政策
- 第21回 都市政策・都市計画の誕生―開―大阪市長の役割―
- 第22回 公害問題の深刻化―大阪の煤煙問題―
- 第23回 郊外住宅地の開発
- 第24回 昭和恐慌・満州事変と大阪経済
- 第25回 阪神工業地帯の形成
- 第26回 準戦時体制と大阪
- 第27回 日中戦争の全面化と大阪
- 第28回 太平洋戦争下の空襲と都市―大阪大空襲にみる―
- 第29回 全体のまとめ
- 第30回 学年末試験

【成績評価の方法】

出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。

【参考文献】

- ・原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年）
 - ・広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年）
 - ・芝村篤樹『日本近代都市の成立―1920・30年代の大阪―』（松籟社、1998年）
 - ・佐賀 朝『近代大阪の都市社会構造』（日本経済評論社、2007年）
 - ・広川禎秀編『近代大阪の地域と社会変動』（部落問題研究所、2009年）
- 以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

科目名 クラス 講義区分	
日本経営論研究 A <春>	
岸 本 喜樹朗	2 単位

【講義概要】

1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本的経営」諸慣行の多くは、国内では90年代以降のグローバリゼーションの急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。また、それに伴い日本企業はグローバリゼーションへの戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本講義では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバリゼーションを視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等の観点から、各テーマについて本研究科教員による基調講義の後、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫ることにしている。

なお、講義計画は、多少変更する場合がある。
講義は、前期は各テーマについて本研究科教員による理論的な基調講義を行うこととする。

【学習目標】

本講義の学習目標は、21世紀を迎え、グローバル化が一層進展する下で、経営管理の主要な諸側面で日本企業がどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているかについて、理論と実践の両面から理解を深めることにある。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 経営戦略
- 第3回 人事労務戦略
- 第4回 生産戦略
- 第5回 異文化経営戦略
- 第6回 資材調達戦略
- 第7回 情報戦略
- 第8回 マーケティング戦略
- 第9回 財務戦略
- 第10回 日本型流通システム
- 第11回 日本型金融システム
- 第12回 日本企業のコンプライアンス
- 第13回 日本型企業税制
- 第14回 総括

【成績評価の方法】

レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案する。

【参考文献】

必要に応じ各担当講師が指示

【備考】

【準備学習の指示】

世界経済の中で日本の国際競争力を獲得していくためには、何が必要かという幅広い視野が望まれる。その上で、日本的経営の特質を学ぼうとする意欲の下で、広範な日本及び世界ビジネス・経済に関する新聞・雑誌の記事に絶えず目を向けて、場合によっては、それらをスクラップブックにファイルして持参するというような対応が望まれる。

【大学院科目であることへの留意】

この科目は経営学研究科の大学院科目である。したがって、十分な経営学全般についての知識・素養が必要である。その上で、学部学生諸君は、毎回必ず出席するというつもりでの熱心な履修が望まれる。

- ・インテグレーション科目
- ・07B生対象

科目名 クラス 講義区分	
日本経営論研究B <秋>	
岸 本 喜樹朗	2 単位

【講義概要】

1980年代まで優れたパフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本の経営」諸慣行の多くは、国内では90年代以降のグローバリゼーションの急速な進展と長期構造不況の中でかつての輝きを失ってしまった。また、それに伴い日本企業はグローバリゼーションへの戦略的対応を迫られ、経営の本格的な多国籍展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本講義では、このような大きな状況変化を踏まえて、グローバリゼーションを視座に据えて、日本企業は経営管理の主要な各側面でのどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等の観点から、各テーマについて本研究科教員による基調講義の後、経営の多国籍展開を積極的に行っている先進企業の第一線で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を大幅に採り入れ、理論と実践の両面から迫ることにしている。

なお、講義計画は、多少変更する場合がある。

講義は、先進企業の第一線で活躍中ないしその経験豊富な実務家教員による事例研究の講義を行うこととする。

【学習目標】

本講義の学習目標は、21世紀を迎え、グローバル化が一層進展する下で、経営管理の主要な諸側面で日本企業がどのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているかについて、理論と実践の両面から理解を深めることにある。

【講義計画】

- 第1回 日本の代表的企業A社の事例研究(1)
- 第2回 日本の代表的企業A社の事例研究(2)
- 第3回 日本の代表的企業B社の事例研究(1)
- 第4回 日本の代表的企業B社の事例研究(2)
- 第5回 日本の代表的企業C社の事例研究(1)
- 第6回 日本の代表的企業C社の事例研究(2)
- 第7回 日本の代表的企業D社の事例研究(1)
- 第8回 日本の代表的企業D社の事例研究(2)
- 第9回 日本の代表的企業E社の事例研究(1)
- 第10回 日本の代表的企業E社の事例研究(2)
- 第11回 日本の代表的企業F社の事例研究(1)
- 第12回 日本の代表的企業F社の事例研究(2)
- 第13回 日本の代表的企業G社の事例研究(1)
- 第14回 日本の代表的企業G社の事例研究(2)

【成績評価の方法】

レポート内容、発言状況、出席状況等を総合的に勘案する。

【参考文献】

必要に応じ各担当講師が指示

【備考】

【準備学習の指示】

世界経済の中で日本の国際競争力を獲得していくためには、何が必要かという幅広い視野が望まれる。その上で、日本の経営の特質を学ぼうとする意欲の下で、広範な日本及び世界ビジネス・経済に関する新聞・雑誌の記事に絶えず目を向けて、場合によっては、それらをスクラップブックにファイルして持参するというような対応が望まれる。

【大学院科目であることへの留意】

この科目は経営学研究科の大学院科目である。したがって、十分な経営学全般についての知識・素養が必要である。その上で、学部学生諸君は、毎回必ず出席するというつもりでの熱心な履修が望まれる。

- ・インテグレーション科目
- ・07B生対象

科目名 クラス 講義区分	
日本経済史 <秋集>	
梅 本 哲 世	4 単位

【講義概要】

グローバル化が急速に進展するなかで、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つめ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。

この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。

歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

【学習目標】

この講義では以下の内容について学習し、理解を深めることを目標とする。

- 第1に、幕末から明治初めにかけての資本主義経済の芽生えと成長について、商品経済・貨幣経済の展開過程と関連させて学習する。
- 第2に、明治政府の「殖産興業政策」と、それを基礎にして展開した日本の産業革命について学習し、その日本の特徴について学ぶ。
- 第3に、第1次世界大戦を経過して、日本経済がどのような変容を遂げたかを、アメリカを中心とした世界経済の展開と関わらせて学習する。
- 第4に、1929年に始まった世界恐慌が日本経済に与えた影響について学習する。そのさい、世界経済のブロック化と経済の軍事化について注目したい。
- 第5に、戦争と日本経済について学習する。アジア・太平洋戦争が日本経済に与えた影響とその帰結について今日的視点から検討したい。

【講義計画】

- 第1回 経済史の基本概念(1)
- 第2回 経済史の基本概念(2)
- 第3回 幕末の経済と開港(1)
- 第4回 幕末の経済と開港(2)
- 第5回 明治維新
- 第6回 殖産興業と松方財政(1)
- 第7回 殖産興業と松方財政(2)
- 第8回 近代産業の発達ー軽工業(1)
- 第9回 近代産業の発達ー軽工業(2)
- 第10回 近代産業の発達ー重工業(1)
- 第11回 近代産業の発達ー重工業(2)
- 第12回 日清・日露戦争と日本経済
- 第13回 財閥と日本経済
- 第14回 日本資本主義と寄生地主制
- 第15回 確立期日本資本主義の特質
- 第16回 第1次世界大戦と日本経済
- 第17回 1920年代の日本経済
- 第18回 金融恐慌
- 第19回 金解禁(1)
- 第20回 金解禁(2)
- 第21回 昭和恐慌と金輸出再禁止
- 第22回 高橋財政(1)
- 第23回 高橋財政(2)
- 第24回 統制経済の展開(1)
- 第25回 統制経済の展開(2)
- 第26回 戦時下の日本経済(1)
- 第27回 戦時下の日本経済(2)
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

- 1. 講義中の小テスト(5回程度の予定)
 - 2. 期末試験
- 以上を総合して成績評価をする。

【教科書】

三和良一 概説日本経済史 近現代〔第2版〕東京大学出版会

【参考文献】

- 石井寛治『日本経済史〔第2版〕』(東京大学出版会)
- 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』(東京大学出版会)

【備考】

授業前に教科書(三和良一著『概説日本経済史』)の該当章を読んでほしい。

科目名 クラス 講義区分	
日本経済論 <春集>	
鈴 木 健	4 単位

【講義概要】

戦後の日本経済は、政治（外交）＝軍事上の対米従属を前提とする政官財癒着の統治枠組みのもと、国家が直接・間接に大企業＝大銀行の蓄積を支える経済システムとして再建・確立された。しかし、90年代以降それは内外に累積する困難（矛盾）に直面して事実上機能不全に陥っている。日本経済の根幹を支配する大企業＝大銀行システムが行き詰まり、しかもそれが統治システムの内部腐蝕と表裏をなして表面化しつつある。アメリカ発金融危機は世界恐慌の様相を呈し始め、日本経済の困難をさらに加重しつつある。本講義では、戦後日本経済の歴史過程を概観し、今日、日本経済が直面し解決できずにいる矛盾の根源がどこにあるのか、そしてまた日本経済の自律的展開の方向がどこにあるのかについて考えることにする。

【学習目標】

本講義の目標は、こうした行き詰まりに直面する日本経済の現状を理解するのに必要な最低限の基礎的知識を身につけてもらうことにある。柱は三つある。

第一、戦後の対米従属的国家間関係、
第二、国家的従属を前提とする日本の独占資本の強蓄積の仕組、
第三、米日・欧日独占資本の競争と国家間関係、

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
第一章 (1)、(2)、
第2回 第一章 (3)、(4)、
第3回 第二章 (5)、(6)、
第4回 第二章 (7)、(8)、
第5回 第二章 (9)、(10)、
第6回 第三章 (11)、(12)、
第7回 第三章 (13)、(14)、
第8回 第四章 (15)、(16)、
第9回 第四章 (17)、(18)、
第10回 第四章 (19)、(20)、
第11回 第四章 (21)、(22)、
第12回 第五章 (23)、(24)、
第13回 第五章 (25)、(26)、
第14回 第五章 (27)、(28)、
第15回 第五章 (29)、(30)、
第16回 第五章 (31)、(32)、
第17回 第五章 (33)、(34)、
第18回 第六章 (35)、(36)、
第19回 第六章 (37)、(38)、
第20回 第六章 (39)、(40)、
第21回 第六章 (41)、(42)、
第22回 第六章 (43)、(44)、
第23回 第六章 (45)、(46)、
第24回 第六章 (47)、(48)、
第25回 第六章 (49)、(50)、
第26回 補足 アメリカ発金融危機と世界不況(1)
第27回 補足 アメリカ発金融危機と世界不況(2)
第28回 補足 アメリカ発金融危機と世界不況(3)

【成績評価の方法】

学期中に行うテスト(10回)の受験回数(6回以上)と点数(6割以上)を勘案して評価する。受験するテストの回数が6回に満たない者は理由の如何を問わず「厳格に」不合格とするので、単位の取得を希望し、しかも出席する意図のない者は受講しても無駄であることを予め承知しておくこと。

【教科書】

大槻久志『やさしい日本経済の話』新日本出版社

【参考文献】

講義中、適宜紹介する。

【備考】

受講者は、講義終了後、テキストの当該箇所、配布されたレジュメ・資料などを参照しながら講義の内容を復習するのはもとより、次回の講義予定箇所についてテキストをよく読んでおくことが望ましい。

科目名 クラス 講義区分	
日本語 I a 01<春>	
村 中 淑 子	1 単位

【講義概要】

外国人留学生が、大学で勉強する際に必要となるアカデミックな日本語力のうち、とくに書く力を養うことを目指して授業を進める。

【学習目標】

筋道の通ったわかりやすい日本語で、事実と意見とを分けて書けるようになることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
第2回 作文練習
第3回 作文練習
第4回 作文練習
第5回 作文練習
第6回 作文練習
第7回 作文練習
第8回 作文練習
第9回 作文練習
第10回 作文練習
第11回 作文練習
第12回 作文練習
第13回 作文練習
第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 20% 出席 80%

出席点の中には、ほぼ毎回の課題作文への評価も含まれる。

【備考】

ほぼ毎回、作文課題を課すので、授業外の学習が必須。作文課題は次回授業の前日までに、教員の研究室へ提出のこと。

使用教科書は、授業開始後の早い時点で決定し知らせる。

科目名	クラス	講義区分
日本語 I a 02<春>		
串 田 真知子	1 単位	

【講義概要】

大学で学ぶには、これまで主に学習してきた話し言葉中心の日本語だけでなく、論理的でアカデミックな書き言葉としての日本語が必要とされる。ここでは大学で必要とされる日本語能力のうち「話す」「書く」を中心に、日本及び世界で起こっている問題について日本語で考え、その考えを日本語で表現することを学ぶ。

【学習目標】

具体的な学習内容として、「書く」学習では、レポートなどの文章を書くために必要な表現・文法・文構成や日本語作文の基礎的知識を学び、「話す」学習では、スピーチなどを通して自分の考えを伝えるために必要な表現について学ぶ。日本および世界で起こっていることに対して自分の意見が日本語で表現できるようになることを目指している。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ケータイ社会①
- 第3回 ケータイ社会②
- 第4回 原子力発電①
- 第5回 原子力発電②
- 第6回 自動車の普及①
- 第7回 自動車の普及②
- 第8回 企業への精神的従属①
- 第9回 企業への精神的従属②
- 第10回 肥大化する競争社会①
- 第11回 肥大化する競争社会②
- 第12回 大量廃棄社会から循環型社会へ①
- 第13回 大量廃棄社会から循環型社会へ②
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 20%
漢字小テスト、カタカナ語テスト、課題提出、発表、授業態度などで30%

【参考文献】

『留学生のための時代を読み解く上級日本語』宮原彬編 スリーエーネットワーク 4-88319-384-5
『上級へのとびら』岡まゆみ他 くろしお出版 978-4-87424-447-0

【備考】

- ・コピーを配布
- ・遅刻・早退は3回で欠席1回と見なす。
- ・2/3以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

【準備学習の指示】

新聞、インターネット、テレビなどでニュースをよく見ておくこと。日本及び世界で起こっていることについて日本語で読んだり聞いたりし、使われている語彙や表現に注意を向けておくこと。

科目名	クラス	講義区分
日本語 I a 03<春>		
岡 田 裕 子	1 単位	

【講義概要】

交換留学生のための日本語クラス。受講者に応じた、日本語中上級レベルのテキストを使用し、文法・読解・聴解・漢字・語彙などを学習する。必要に応じて小テストや作文、レポート、プレゼン発表等の課題を課す。

【学習目標】

理解だけでなく、実践的な運用力を身につける。日本語でレポートを書いたり、プレゼン発表を行ったり、大学生として必要なスキルを身につける。また、現代日本の社会的習慣や考え方をすることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第2回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第3回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第4回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第5回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第6回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第7回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第8回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第9回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第10回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第11回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第12回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第13回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第14回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

期末試験と、授業ごとに行う小テストを実施する。評価は、期末試験・小テスト・提出課題・出席率・授業中のパフォーマンスについて行う。

【教科書】

事前にプレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で最終的に決定する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅰa 04<秋>	
岡 田 裕 子	1 単位

【講義概要】

交換留学生のための日本語クラス。受講者に応じた、日本語中級レベルのテキストを使用し、文法・読解・聴解・漢字・語彙などを学習する。必要に応じて小テストや作文等の課題を課す。

【学習目標】

理解だけでなく、実践的な運用力を身につけ、日本語の表現の幅を広げることを目指す。また、現代日本の社会的習慣や考え方を知ることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第2回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第3回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第4回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第5回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第6回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第7回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第8回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第9回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第10回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第11回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第12回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第13回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第14回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

期末試験と、授業ごとに行う小テストを実施する。
評価は、期末試験・小テスト・提出課題・出席率・授業中のパフォーマンスについて行う。

【教科書】

事前にプレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で最終的に決定する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅰb 01<春>	
吉 岡 美 穂	1 単位

【講義概要】

新聞、雑誌などの国内外に関するニュース記事を中心に、内容を要約する練習を行う。自分の考えと比較しながら異文化理解を深めていく。

【学習目標】

国内外で起きている情報を通して、自分の意見を述べるだけでなく、自分とは異なる他者の意見も尊重できるようにする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 読解演習
- 第3回 読解演習
- 第4回 読解演習
- 第5回 読解演習
- 第6回 読解演習
- 第7回 読解演習
- 第8回 読解演習
- 第9回 読解演習
- 第10回 読解演習
- 第11回 読解演習
- 第12回 読解演習
- 第13回 読解演習
- 第14回 読解演習
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

出席、宿題、レポート、試験によって評価する。

【教科書】

教員が毎回資料を配布する。

【参考文献】

授業中に参考となる文献を紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語 I b 02<春>	
清 水 明 子	1 単位

【講義概要】

留学生の大学生活で必要とされる日本語能力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばすことを学習の目的とする。「読む」ことの学習では、専門分野のレポート、論文、専門書などの専門的な文章を読むための基礎的な読解技術を学ぶ。
「聞く」ことの学習では、アカデミックな大学の講義などを正確に聞き取るために必要な要素として文法を重視する。

【学習目標】

【読解】文章構造・文章の論理構造・文法に関する知識を学び、段落読み・アウトライン作成などの読解スキルを身につけることを目標とする。
【聴解】既習の中級文法項目が様々な場面で使用されている聴解教材を用いて聞き取り練習を行い、聴解力を養成するとともに文法・構文の運用力の養成を目指す。

【講義計画】

- 第1回 【読解】授業の進め方及びテキストの使い方の説明
【聴解】文法リスニング練習の方法説明と準備
- 第2回 【読解】第1課 文章の構造
【聴解】文法リスニング練習1
- 第3回 【読解】第2課 中心文と支持文
【聴解】文法リスニング練習2
- 第4回 【読解】第3課 アウトライン、分類
【聴解】文法リスニング練習3
- 第5回 【読解】第4課 定義
【聴解】文法リスニング練習4
- 第6回 【読解】第5課 経過
【聴解】文法リスニング練習5
- 第7回 【読解】小テスト
- 第8回 【読解】第6課 比較・対照
【聴解】文法リスニング練習6
- 第9回 【読解】第7課 原因・結果
【聴解】文法リスニング練習7
- 第10回 【読解】第8課 位置
【聴解】文法リスニング練習8
- 第11回 【読解】第9課 列挙・順序
【聴解】文法リスニング練習9
- 第12回 【読解】第10課 理由・根拠
【聴解】文法リスニング練習10
- 第13回 【読解】第11課 筆者の意見を表す表現
【聴解】文法リスニング練習11
- 第14回 【読解】第12・13課 レポート・研究計画書
【聴解】文法リスニング練習12
- 第15回 【読解】期末試験
【聴解】期末試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 20%
提出物：10%、授業参加態度：10%

【教科書】

アカデミック・ジャパニーズ研究会 大学・大学院留学生の日本語
①読解編 アルク

【備考】

【準備学習の指示】
毎回、各課の語彙を予習し、本文を読んでおくこと。授業後の課題プリントで各課で学んだ内容を復習整理し、次の漢字クイズに備えて練習しておくこと。

科目名 クラス 講義区分	
日本語 I b 03<春>	
三 木 由里子	1 単位

【講義概要】

日本語レベル中級～上級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】

中級後半から上級の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】

- 第1回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
- 第2回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第3回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第4回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第5回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第6回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第7回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第8回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第9回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第10回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第11回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第12回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第13回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
- 第14回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
注1：レポートの20%の内訳は、宿題等の提出物10%、メインテキストの漢字クイズ10%である。
注2：授業中プレゼンテーションなどを行う場合、これについての評価方法は別途連絡する。

【教科書】

テキスト購入の方法については、開講前に国際センターを通じて指示する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅰ b 04<秋>	
三 木 由里子	1 単位

【講義概要】

日本語レベル中級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】

中級中盤の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】

- 第1回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
- 第2回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第3回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第4回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第5回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
- 第6回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第7回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第8回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第9回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第10回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第11回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第12回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第13回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第14回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

注：レポートの20%の内訳は、宿題等の提出物10%、メインテキストの漢字クイズ10%である。

【教科書】

テキスト購入の方法については、開講前に国際センターを通じて指示する

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ a 01<秋>	
村 中 淑 子	1 単位

【講義概要】

前期に引き続き、外国人留学生が、大学で勉強する際に必要となるアカデミックな日本語力のうち、とくに書く力を養うことを目指して授業を進める。

【学習目標】

筋道の通ったわかりやすい日本語で、事実と意見とを分けて書けるようになることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 作文練習
- 第3回 作文練習
- 第4回 作文練習
- 第5回 作文練習
- 第6回 作文練習
- 第7回 作文練習
- 第8回 作文練習
- 第9回 作文練習
- 第10回 作文練習
- 第11回 作文練習
- 第12回 作文練習
- 第13回 作文練習
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 20% 出席 80%

出席点の中には、ほぼ毎回の課題作文への評価も含まれる。

【備考】

ほぼ毎回、作文課題を課すので、授業外の学習が必須。作文課題は次回授業の前日までに、教員の研究室へ提出のこと。

使用教科書は、受講メンバーを確認した後に決定し、知らせる。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ a 02<秋>	
串 田 真知子	1 単位

【講義概要】

大学で学ぶには、これまで主に学習してきた話し言葉中心の日本語だけでなく、論理的でアカデミックな書き言葉としての日本語が必要とされる。ここでは大学で必要とされる日本語能力のうち「話す」「書く」を中心に、日本及び世界で起きていることについて、日本語で考え、その考えを日本語で表現することを学ぶ。

【学習目標】

春学期に続き、日本および世界で起きていることに対して自分の意見が日本語で表現できるようになることを目指している。特に今期は、自分の考えをわかりやすく正確に伝えるための活動として、新聞作りも行う。

【講義計画】

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 性的役割分担①
- 第3回 性的役割分担②
- 第4回 過労自殺の実相①
- 第5回 過労自殺の実相②
- 第6回 少子化進行で見える社会のゆがみ①
- 第7回 少子化進行で見える社会のゆがみ②
- 第8回 年金改革と高齢者雇用①
- 第9回 年金改革と高齢者雇用②
- 第10回 新聞作り①
- 第11回 新聞作り②
- 第12回 所得分配の不平等化①
- 第13回 所得分配の不平等化②
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 20%
漢字小テスト、カタカナ語テスト、課題提出、発表、授業態度などで30%

【参考文献】

『留学生のための時代を読み解く上級日本語』宮原彬編 スリーエーネットワーク 4-88319-384-5
『上級へのとびら』岡まゆみ他 くろしお出版 978-4-87424-447-0

【備考】

- ・コピーを配布
- ・遅刻・早退は3回で欠席1回と見なす。
- ・2/3以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

【準備学習の指示】

新聞、インターネット、テレビなどでニュースをよく見ておくこと。日本及び世界で起きていることについて日本語で読んだり聞いたりし、使われている語彙や表現に注意を向けておくこと。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ a 03<春>	
岡 田 裕 子	1 単位

【講義概要】

交換留学生のための日本語クラス。受講者に応じた、日本語中上級レベルのテキストを使用し、文法・読解・聴解・漢字・語彙などを学習する。必要に応じて小テストや作文、レポート、プレゼン発表等の課題を課す。

【学習目標】

理解だけでなく、実践的な運用力を身につける。日本語でレポートを書いたり、プレゼン発表を行ったり、大学生として必要なスキルを身につける。また、現代日本の社会的習慣や考え方を知ることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第2回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第3回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第4回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第5回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第6回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第7回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第8回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第9回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第10回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第11回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第12回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第13回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第14回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

期末試験と、授業ごとに行う小テストを実施する。
評価は、期末試験・小テスト・提出課題・出席率・授業中のパフォーマンスについて行う。

【教科書】

事前にプレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で最終的に決定する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ a 04<秋>	
岡 田 裕 子	1 単位

【講義概要】

交換留学生のための日本語クラス。受講者に応じた、日本語中級レベルのテキストを使用し、文法・読解・聴解・漢字・語彙などを学習する。必要に応じて小テストや作文等の課題を課す。

【学習目標】

理解だけでなく、実践的な運用力を身につけ、日本語の表現の幅を広げることを目指す。また、現代日本の社会的習慣や考え方を知ることによって、日本に対する理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第2回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第3回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第4回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第5回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第6回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第7回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第8回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第9回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第10回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第11回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第12回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第13回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第14回 本文読解
語彙・文法・表現の運用練習
聴解
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

期末試験と、授業ごとに行う小テストを実施する。
評価は、期末試験・小テスト・提出課題・出席率・授業中のパフォーマンスについて行う。

【教科書】

事前にプレースメントテストを行い、学生のレベルを把握した上で最終的に決定する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ b 01<秋>	
吉 岡 美 穂	1 単位

【講義概要】

国内外のニュース情報などから読解の演習を行う。テーマにそってディスカッションを行う。

【学習目標】

積極的に人の意見を聞く力と、他者の意見を尊重する重要性を学ぶ。自分の意見を分かりやすく伝えることができることを目的とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 読解演習
- 第3回 読解演習
- 第4回 読解演習
- 第5回 読解演習
- 第6回 読解演習
- 第7回 読解演習
- 第8回 読解演習
- 第9回 読解演習
- 第10回 読解演習
- 第11回 読解演習
- 第12回 読解演習
- 第13回 読解演習
- 第14回 読解演習
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

出席、宿題、レポート、テストによって評価する。

【教科書】

教員が毎回資料を配布する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ b 02<秋>	
清 水 明 子	1 単位

【講義概要】

日本語Ⅰb（春学期）に引き続き、「読む力」「聞く力」を伸ばすことを学習の目的とする。読解は講義形式ではなく、教材の読解を分担して発表形式で行い、クラスメートとの協働で学んでいく。今期の授業では特に「授業に積極的に参加し、自分から学ぶ」ことが求められる。そのために出席・発表・授業参加態度・提出物を重視している。

聴解は日本語Ⅰbの内容を継続して行い、さらにその他の聴解教材も適宜組み合わせ、中級から上級の聞き取り練習を行っていく。

【学習目標】

【読解】日本語Ⅰbで学んだ読解技術を使用して、より生に近い教材を自分で読み解く力をつけることを目指す。各自が分担した教材をよく調べ、他の学生に説明することによって、クラス全員が正確に読みとれているかを確認し合う。そのような活動を通して、自分自身で問題を解決する力を身につけることを目標とする。

【聴解】語彙や表現の幅を広げ、日常のさまざまな状況での聞き取りに対応できる聴解力をつけることを目標とする。

【講義計画】

第1回	【読解】授業の進め方の説明	読解分担	【聴解】練習1
第2回	【読解】読解発表（例）	【聴解】練習2	
第3回	【読解】読解発表1	【聴解】練習3	
第4回	【読解】読解発表2	【聴解】練習4	
第5回	【読解】読解発表3	【聴解】練習5	
第6回	【読解】読解発表4	【聴解】練習6	
第7回	【読解】読解発表5	【聴解】練習7	
第8回	【読解】読解発表6	【聴解】練習8	
第9回	【読解】読解発表7	【聴解】練習9	
第10回	【読解】読解発表8	【聴解】練習10	
第11回	【読解】読解発表9	【聴解】練習11	
第12回	【読解】読解発表10	【聴解】練習12	
第13回	【読解】読解発表11	【聴解】練習13	
第14回	【読解】読解発表12	【聴解】練習14	
第15回	【読解】試験	【聴解】試験	

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 10%
発表：10% 提出物：10% 授業参加態度：10%

【備考】

【準備学習の指示】

毎回の授業に際し、あらかじめ本文を読んでおくこと。授業後に配布される課題プリントで復習し、自分の理解を確認した上で提出すること。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ b 03<春>	
三 木 由里子	1 単位

【講義概要】

日本語レベル中級～上級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため（日本語Ⅰbと2コマ続けて同じ学生が受講する）、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】

中級後半から上級の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】

第1回	メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
第2回	メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第3回	メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第4回	メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第5回	メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第6回	メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第7回	メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第8回	メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第9回	メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第10回	メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第11回	メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第12回	メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第13回	メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。
第14回	メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。新聞記事読解。

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
注1：レポートの20%の内訳は、宿題等の提出物10%、メインテキストの漢字クイズ10%である。
注2：授業中プレゼンテーションなどを行う場合、これについての評価方法は別途連絡する。

【教科書】

テキスト購入の方法については、開講前に国際センターを通じて指示する

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅱ b 04<秋>	
三 木 由里子	1 単位

【講義概要】

日本語レベル中級向けのテキストを使用し、文法、読解、聴解、漢字などを学習する。必要に応じてスピーチや作文等の課題を課す。なお、この科目は交換留学生のみを対象としたものであるため（日本語Ⅰ b と 2 コマ続けて同じ学生が受講する）、詳細は国際センターを通じて交換留学生に配付するシラバスを参照のこと。

【学習目標】

中級中盤の日本語レベルに到達するのに必要な語彙・文法・表現を身につけ、四技能を伸ばすとともに、理解力だけでなく運用力をつける。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。

【講義計画】

- 第1回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。詳細は交換留学生用シラバスを参照のこと。
- 第2回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第3回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第4回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第5回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第6回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第7回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第8回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第9回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第10回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第11回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第12回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第13回 メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。
- 第14回 メインテキストの漢字クイズ。メインテキストの読解と文法練習。聴解テキストを使った聴解。

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

成績評価の方法

注：レポートの20%の内訳は、宿題等の提出物10%、メインテキストの漢字クイズ10%である。

【教科書】

テキスト購入の方法については、開講前に国際センターを通じて指示する

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅲ a 01<春>	
村 中 淑 子	1 単位

【講義概要】

大学の授業におけるレポートを書くための助けとなるような作業を行っていく。わかりやすく効果的な論の進め方、客観的な文章表現、引用のしかた、などを学ぶ。

【学習目標】

学問的な文章を書く、とはどのようなことであるか理解することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レポートの書き方・その実践
- 第3回 レポートの書き方・その実践
- 第4回 レポートの書き方・その実践
- 第5回 レポートの書き方・その実践
- 第6回 レポートの書き方・その実践
- 第7回 レポートの書き方・その実践
- 第8回 レポートの書き方・その実践
- 第9回 レポートの書き方・その実践
- 第10回 レポートの書き方・その実践
- 第11回 レポートの書き方・その実践
- 第12回 レポートの書き方・その実践
- 第13回 レポートの書き方・その実践
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 20% 出席 80%

出席点の中には、ほぼ毎回の課題レポートへの評価も含まれる。

【備考】

ほぼ毎回、課題レポートを課すので、授業外の学習が必須。課題レポートは次回授業の前日までに、教員の研究室へ提出のこと。使用教科書は、授業開始後、受講メンバーを確認した後に決定し、知らせる。

科目名	クラス	講義区分
日本語Ⅲ a 02<春>		
串 田 真知子	1 単位	

【講義概要】

大学で学ぶには、論理的思考に基づいたレポート・論文作成の習得が不可欠である。ここでは日本語によるレポート・論文の基本的書き方を学習する。併せて日本・世界で起こっている事柄について、自分の意見をまとめ、発表し、ディスカッションする学習も行う。

【学習目標】

具体的には日本語によるレポート・論文の基本的書き方、論文の語彙・文型・表現・構成、論理的展開パターン、引用・要約の方法についての学習を行う。序論・本論・結論からなる論理的なレポートが書けるようになることが目標である。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 作文の基本
- 第3回 課題の提示
- 第4回 目的の提示
- 第5回 定義と分類
- 第6回 図表の提示
- 第7回 変化の形容
- 第8回 対比と比較
- 第9回 原因の考察
- 第10回 列挙
- 第11回 引用
- 第12回 同意と反論
- 第13回 帰結
- 第14回 結論の提示
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 20%
漢字小テスト、課題提出、発表、授業態度などで30%

【教科書】

アカデミック・ジャパニーズ研究会編『大学大学院 留学生の日本語④論文作成編』アルク

【参考文献】

『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他 くろしお出版 4-87424-127-1
『留学生のための論理的な文章の書き方』二通信子他 スリーエーネットワーク 4-88319-257-1

【備考】

- ・遅刻・早退は3回で欠席1回と見なす。
- ・2/3以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

【準備学習の指示】

新聞、インターネット、テレビなどでニュースをよく見ておくこと。日本及び世界で起こっていることについて日本語で読んだり聞いたりし、使われている語彙や表現に注意を向けておくこと。

科目名	クラス	講義区分
日本語Ⅲ b 01<春>		
吉 岡 美 穂	1 単位	

【講義概要】

講義、演習、ビデオ、留学生の体験をして日本と異文化について考え、学んでいく。

【学習目標】

日本の文化を学びながら、自文化に対する気づきを促す。自分の国では「常識」であることが、他国では「常識ではない」ことに気づくことを目的とする。日本人のコミュニケーションの特徴を学びながら、自分のコミュニケーションの仕方に気づかせ、異文化理解を深める能力を養う。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文化とは？
- 第3回 文化とは？(2)
- 第4回 コミュニケーションとは？
- 第5回 コミュニケーションの特徴
- 第6回 カルチャーショック
- 第7回 カルチャーショック(2)
- 第8回 異なる文化のとらえ方、接し方
- 第9回 異なる文化のとらえ方、接し方(2)
- 第10回 ステレオタイプと偏見
- 第11回 ステレオタイプと偏見(2)
- 第12回 ビデオ鑑賞
- 第13回 異文化理解
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

出席、授業に対する積極性、レポート、期末テストによって評価する。

【教科書】

教員がコピーを配布する。

【参考文献】

図書館に参考文献を配置してあるので、授業中に紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅲ b 02<春>	
清 水 明 子	1 単位

【講義概要】

専門分野での勉学・研究に必要な日本語力のうち、特に「読解力」と「聴解力」の強化を目指す。
授業に積極的に参加することによって、各自の日本語力を高めることができる。そのために出席・授業参加態度・課題の提出を重視している。

【学習目標】

読解：各自の専門分野の文章を独力で読んでいくための実践的な読解技術として、「読解のストラテジー」を身につけることを目標とする。

聴解：実際のニュースを正確に聞きとるために必要な語彙力と聞き取りのテクニックを身につけることを目標とする。今期は練習用教材を利用してさまざまな内容の聞き取り練習を行う。

【講義計画】

第1回 【読解】授業の進め方、及びテキストの使い方についての説明

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第2回 【読解】第1課本文

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第3回 【読解】第1課実践練習

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第4回 【読解】第2課本文

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第5回 【読解】第2課実践練習

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第6回 【読解】第3課本文

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第7回 【読解】第3課実践練習

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第8回 【読解】第4課本文

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第9回 【読解】第5課本文

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第10回 【読解】第5課実践練習

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第11回 【読解】第6課本文

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第12回 【読解】第6課実践練習

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第13回 【読解】第7課本文

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第14回 【読解】第7課実践練習

【聴解】ニュースで学ぶ日本語パートⅡ

第15回 【読解】試験

【聴解】試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 20%

提出物：10% 授業参加態度：10%

【教科書】

一橋大学留学生センター 留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方 スリーエーネットワーク

【備考】

【準備学習の指示】

毎回の授業に際し、語彙を予習して本文を読んでおくこと。授業後に配布される課題プリントで復習し、自分の理解を確認した上で提出すること。次回の漢字クイズに備えて本文の漢字を練習しておくこと。

日頃からテレビ・ラジオのニュースを視聴し、積極的に聞く姿勢をすること。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅳ a 01<秋>	
村 中 淑 子	1 単位

【講義概要】

前期に引き続き、大学の授業におけるレポートを書くための助けとなるような作業を行っていく。わかりやすく効果的な論の進め方、客観的な文章表現、引用のしかた、などを学ぶ。

【学習目標】

学問的な文章を書く、とはどのようなことであるか理解することを目標とする。

【講義計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 レポートの書き方・その実践

第3回 レポートの書き方・その実践

第4回 レポートの書き方・その実践

第5回 レポートの書き方・その実践

第6回 レポートの書き方・その実践

第7回 レポートの書き方・その実践

第8回 レポートの書き方・その実践

第9回 レポートの書き方・その実践

第10回 レポートの書き方・その実践

第11回 レポートの書き方・その実践

第12回 レポートの書き方・その実践

第13回 レポートの書き方・その実践

第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 20% 出席 80%

出席点の中には、ほぼ毎回の課題レポートへの評価も含まれる。

【備考】

ほぼ毎回、課題レポートを課すので、授業外の学習が必須。課題レポートは次回授業の前日までに、教員の研究室へ提出のこと。

使用教科書は、受講メンバーを確認した後に決定し、知らせる。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅳ a 02<秋>	
串 田 真知子	1 単位

【講義概要】

大学で学ぶには、論理的思考に基づいたレポート・論文作成の習得が不可欠である。ここでは日本語によるレポート・論文の基本的書き方を学習し、ゼミでの研究発表に備えたプレゼンテーションの方法（発表原稿を書き、口頭発表を行う）の学習などを行う。併せて日本・世界で起こっている事柄について、自分の意見をまとめ、発表し、ディスカッションする学習も行う。

【学習目標】

春学期に引き続き日本語で論理的にレポートを書くことを目指す。それに加え、プレゼンテーションの方法も学習する。誰もが納得する論理性のあるレポートを書き、パソコンを使用してわかりやすくインパクトのある口頭発表をすることが目標である。

【講義計画】

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 テーマ決定
- 第3回 マッピング
- 第4回 アウトライン①、アンケート
- 第5回 アウトライン②、アンケート集計
- 第6回 中心文と支持文、グラフ
- 第7回 パラグラフ・ライティング
- 第8回 キーワード、小見出し、参考文献
- 第9回 推敲
- 第10回 発表原稿
- 第11回 スライド作成
- 第12回 プレゼンテーションの方法
- 第13回 発表会
- 第14回 要約の仕方・まとめ
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 30% 出席 20%
プレゼンテーション、授業態度などで30%

【参考文献】

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』大島弥生他 ひつじ書房 4－89476－229－3
『知へのステップ』学習技術研究会編 くろしお出版 4－87424－247－2

【備考】

- ・コピーを配布
- ・遅刻・早退は3回で欠席1回と見なす。
- ・2/3以上の出席がなければ期末試験は受けられない。

【準備学習の指示】

新聞、インターネット、テレビなどでニュースをよく見ておくこと。日本及び世界で起こっていることについて日本語で読んだり聞いたりし、使われている語彙や表現に注意を向けておくこと。

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅳ b 01<秋>	
吉 岡 美 穂	1 単位

【講義概要】

講義、演習、ディスカッションを通して、異文化コミュニケーション能力を高めていく。授業を通して異なる視点から物事を見る力を養う。

【学習目標】

日本人との接し方、関わりかたを学ぶことにより、日本人との問題解決について考える。自文化と多文化に対する理解を深めながら、自分自身への気づきとなることを目的とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 価値観とは？
- 第3回 エクササイズ
- 第4回 家族間
- 第5回 結婚観
- 第6回 言語コミュニケーション
- 第7回 言語コミュニケーションの特徴
- 第8回 会話スタイル
- 第9回 非言語コミュニケーション
- 第10回 非言語コミュニケーション(2)
- 第11回 時間と空間
- 第12回 ビデオ鑑賞
- 第13回 レポート発表
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

出席、授業への積極的な参加、レポート、期末試験によって評価する。

【教科書】

教員が資料を配布する。

【参考文献】

図書室にある参考文献を授業中に紹介する。

な
行

科目名 クラス 講義区分	
日本語Ⅳ b 02<秋>	
清 水 明 子	1 単位

【講義概要】

日本語Ⅲ bに引き続き、読解力と聴解力の強化を目指す。読解は新聞の社説を使用する。授業は講義形式ではなく、分担して発表形式で行い、クラスメートとの協働で学んでいく。
聴解はテレビニュースを録画したものを教室で実際に見ながら、内容を理解し、ディスカッションを行う。
どちらの内容でも、授業に「積極的に参加する」ことによって各自が学ぶことができる。そのために出席・発表・授業参加態度・提出物を重視している。
受講する学生数によって、授業計画を変更する可能性がある。

【学習目標】

【読解】春学期に学んだ「読解のストラテジー」を使って、論説文を正確に読み取ることを目標とする。各自が分担した社説についてクラスメートの質問に答え、説明し、正確に理解できているかを確認し合う。内容によっては背景などの補足説明も準備し、クラス全員がその内容を深く理解できるようにすることが望ましい。そのようなクラス活動を通して自分自身の力で問題を解決する力を養成する。

【聴解】テレビのニュースの内容を理解し、その内容についてディスカッションできるようになることが目標となる。単に聞いてわかったという段階で終わらず、内容についての理解を深め、自分の意見を持ち、自ら発言していく総合的な日本語力を養成する。

【講義計画】

- 第1回 【読解】 授業の進め方の説明、社説テーマの発表と分担
- 第2回 【聴解】 ニュース視聴とディスカッション1
- 第3回 【読解】 読解発表1. 2
- 第4回 【読解】 読解発表3. 4
- 第5回 【聴解】 ニュース視聴とディスカッション2
- 第6回 【読解】 読解発表5. 6
- 第7回 【読解】 読解発表7. 8
- 第8回 【聴解】 ニュース視聴とディスカッション3
- 第9回 【読解】 読解発表9. 10
- 第10回 【読解】 読解発表11. 12
- 第11回 【聴解】 ニュース視聴とディスカッション4
- 第12回 【読解】 読解発表13. 14
- 第13回 【読解】 読解発表15. 16
- 第14回 【聴解】 ニュース視聴とディスカッション5
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 10%
発表：20% 授業参加態度：10% 提出物：10%

【備考】

【準備学習の指示】

毎回の授業での指示に従い、それぞれの分担の準備を計画的に行うこと。毎回の授業後の課題プリントの提出によって、自らの理解を確認する作業を丁寧に行うこと。日頃からニュースの視聴を心がけ、背景となる現代の社会現象に対して興味をもつようにしておくこと。

科目名 クラス 講義区分	
日本語学概論 <春集>	
有 川 康 二	4 単位

【講義概要】

日本語を外国語として学習している人の質問です。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけた「なゝ」は発音できないんだろう？「大型」は「おおがた」。なのに「大風」は「おおがぜ」とは言わない。何故なんだろう？「病気の人」とは言うけど、「元気の人」とは言わないのは何故だろう？「きれいです」は「きれいだ」とも言えるけど、「うつくしいです」は「うつくしいだ」と言えないのは何故だろう？「猫が金魚を食べた」は変だけど、何故、変だと感じるんだろう？この時、頭の中では何がどうなってるんだろう？

日本語の母語話者は日本語を、文法など意識せずに自由に使えます。日本語は馬鹿らしい程当たり前のことです。しかし、日本語の音や文法の法則や仕組みを説明することはできません。（誰でも脳味噌は使えますが、その法則やメカニズムは説明できません。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探ります。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まります。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象となります。

【学習目標】

日本語を三つの視点から概論します。（1）生物言語学の視点＝自然言語は、自然が創造した脳の突然変異と創発的自己組織化によって出現しましたが、その一般的性質とはどのようなものだろうか？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とはどのようなものだろうか？（3）哲学的視点＝私とは何者なのだろうか？私はこの宇宙の中で何をし、老い、死んでいくのだろうか？（大学とお寺でしか言われないので我満して考えて下さい。）

【講義計画】

- 第1回 「もの」とは何か。「ところ」とは何か(1)
- 第2回 「もの」とは何か。「ところ」とは何か(2)
- 第3回 「もの」とは何か。「ところ」とは何か(3)
- 第4回 「もの」とは何か。「ところ」とは何か(4)
- 第5回 「もの」とは何か。「ところ」とは何か(5)
- 第6回 「よい説明」とは何か(1)
- 第7回 「よい説明」とは何か(2)
- 第8回 「よい説明」とは何か(3)
- 第9回 「よい説明」とは何か(4)
- 第10回 「よい説明」とは何か(5)
- 第11回 言語の構造(1)
- 第12回 言語の構造(2)
- 第13回 言語の構造(3)
- 第14回 言語の構造(4)
- 第15回 言語の構造(5)
- 第16回 脳とコンピュータ(1)
- 第17回 脳とコンピュータ(2)
- 第18回 脳とコンピュータ(3)
- 第19回 脳とコンピュータ(4)
- 第20回 脳とコンピュータ(5)
- 第21回 言語情報計算におけるウィルスチェックシステム(1)
- 第22回 言語情報計算におけるウィルスチェックシステム(2)
- 第23回 言語情報計算におけるウィルスチェックシステム(3)
- 第24回 言語情報計算におけるウィルスチェックシステム(4)
- 第25回 言語情報計算におけるウィルスチェックシステム(5)
- 第26回 予備
- 第27回 予備
- 第28回 予備
- 第29回 予備
- 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

筆記試験は、教科書、配布プリント、自筆ノートは持ち込み可。尚、平常点（どれだけ積極的に授業に参加したかなど）も考慮する。

【教科書】

有川康二 新・脳科学基礎論としての生物言語学（理論編）三恵社
2010年3月に刊行予定。

【参考文献】

酒井邦嘉(2002)『言語の脳科学-脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書
寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味1』くろしお出版
寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味2』くろしお出版
野村奉幸(2005)『プラトンと考えることばの獲得-成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

科目名	クラス	講義区分
日本語教授法Ⅰ <通期>		
有 川 康 二	4 単位	

【講義概要】

どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所があります。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することです。そのためには、何が長所で、何が短所になるのかを理解しておかなければなりません。例えば、ドリルに関していえば、なるべく現実に近い状況や会話の練習は長所と言えます。日本語の初級文法に焦点を絞り、(教師のための) 実践的な文法整理と、(学習者のための) 効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行います。

【学習目標】

一定の制限された状況（教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間で約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習（ドリル）を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となります。何語でもそうですが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物です。同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならないと思います。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
外国語教授法のイロハ
どこで日本語を教えるのか？
日本語を教える仕事とは何か？
本学で日本語教員資格証書を得るとどんな仕事に就けるのか？
- 第2回 指示表現（コソアド）
- 第3回 指示表現（コソアド）
- 第4回 形容詞
- 第5回 形容詞
- 第6回 存在表現
- 第7回 存在表現
- 第8回 時制（テンス）と相（アスペクト）
- 第9回 時制（テンス）と相（アスペクト）
- 第10回 保留形（テ形）
- 第11回 保留形（テ形）
- 第12回 願望の助動詞ta/gar
- 第13回 願望の助動詞ta/gar
- 第14回 可能の助動詞e/(ra)ra
- 第15回 可能の助動詞e/(ra)ra
- 第16回 様態・推量の助動詞ソウダ/ヨウダ/ラシイ
- 第17回 様態・推量の助動詞ソウダ/ヨウダ/ラシイ
- 第18回 テイル・テアル・テオク（窓が開イテイル/開ケテアル/窓ヲ開ケテオク）
- 第19回 テイル・テアル・テオク（窓が開イテイル/開ケテアル/窓ヲ開ケテオク）
- 第20回 授受表現（(テ) モラウ/ (テ) クレル/ (テ) アゲル等）
- 第21回 授受表現（(デ) モラウ/ (テ) クレル/ (テ) アゲル等）
- 第22回 態（受身・使役・使役受身）
- 第23回 態（受身・使役・使役受身）
- 第24回 条件表現（雨ガ降ッたら〜/降ルナラ/降レバ/降ルト）
- 第25回 条件表現（雨ガ降ッたら〜/降ルナラ/降レバ/降ルト）
- 第26回 敬語（オ読ミニナル/オ読ミスル/ナサル/イタス等）
- 第27回 敬語（オ読ミニナル/オ読ミスル/ナサル/イタス等）
- 第28回 予備
- 第29回 予備
- 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 100%
筆記試験は、教科書、自筆のノート、配布プリント持ち込み可。尚、平常点（授業に積極的に参加したかなど）も考慮する。

【教科書】

東京YMCA日本語学校 入門日本語教授法 創拓社

【参考文献】

三浦昭(1983)『初級ドリルの作り方』凡人社
岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材・分析・使用・作成』アルク
Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典, The Japan Times.

科目名	クラス	講義区分
日本語教授法Ⅱ [4] <通期>		
友 沢 昭 江	4 単位	

【講義概要】

日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。本講では教授法Ⅲで行う模擬授業などに必要な教授法の基本と教材の分析研究を中心に学びます。

【学習目標】

この授業の目標は日本語を教えるのに必要な基礎的な知識（日本語に関すること、教授法に関すること）を獲得すること、一般によく使用されている教科書をグループに分かれて詳細に分析し発表することです。

【講義計画】

- 第1回 日本語を教えるということ(1)
- 第2回 日本語を教えるということ(2)
- 第3回 いろいろな外国語教授法(1)
- 第4回 いろいろな外国語教授法(2)
- 第5回 初級の教え方（発音/会話）(1)
- 第6回 初級の教え方（発音/会話）(2)
- 第7回 初級の教え方（文字/読解）(1)
- 第8回 初級の教え方（文字/読解）(2)
- 第9回 初級の教え方ービデオ視聴
- 第10回 初級の教え方ービデオ視聴
- 第11回 初級の教え方ービデオについての発表
- 第12回 初級の教え方ー初級教科書の分析(1)
- 第13回 初級の教え方ー初級教科書の分析(2)
- 第14回 中間試験
- 第15回 中間試験の講評
- 第16回 初級の教え方ー初級教科書の分析(3)
- 第17回 初級の教え方ー初級教科書の分析(4)
- 第18回 教科書分析のグループ発表(1)
- 第19回 教科書分析のグループ発表(2)
- 第20回 教科書分析のグループ発表(3)
- 第21回 教科書分析のグループ発表(4)
- 第22回 予備日
- 第23回 中上級の教え方ー初級との違いについて
- 第24回 中級教科書の分析(1)
- 第25回 中級教科書の分析(2)
- 第26回 目的・技能別教科書の分析
- 第27回 インターネット利用の日本語教育
- 第28回 上級教科書の分析
- 第29回 期末試験
- 第30回 期末試験の講評

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 10% 出席 30%
学期の中間期と学期末に試験を行います。それ以外にも授業での発言、グループ発表、および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので、出席は最重要視されます。

【教科書】

高見澤孟『新・はじめての日本語教育2ー日本語教授法入門』（2004）アスク

【参考文献】

- ・『新・はじめての日本語教育1ー日本語教育の基礎知識』（高見澤孟他、アスク、2004）
- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上』（川口義一&横溝紳一郎、ぴつじ書房、2005）
- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 下』（川口義一&横溝紳一郎、ぴつじ書房）
- ・『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）
- ・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）
- ・『中上級を教える人のための文法ワークブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）

【備考】

一年間で教科書をすべて扱うことはできないので、授業開始までに教科書全体に目を通して、扱われている項目についてある程度の知識をもっておいください。

科目名 クラス 講義区分	
日本語教授法Ⅲ [4] <春集>	
友 沢 昭 江	4 単位

【講義概要】

本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を統合して、効果的な教育を行うための実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに分かりやすく提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題に適切に対応するかを実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として教授法関連の基礎的な科目である日本語教授法Ⅰと日本語教授法Ⅱを履修済みの学生のための受講を認めます。

【学習目標】

- ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見て比較検討します。
- ・模擬授業の準備段階として、基本的な教授項目をどのように導入するか、またそのための教案をどのように作成するかを考えます。
- ・グループ単位（4～5名）で実際の授業を組み立て、模擬授業（1回20分程度を異なる教授法に基づいて2回）として発表します。実習を担当する学生以外の人は学習者の役割を演じる、授業を観察してコメントを述べる、各自の観察結果を評価表に書き入れるなどが求められ、全員参加で行います。
- ・実際の日本語授業（学内）を見学し、レポートを作成したり、夏期・春期休暇中に学外機関（日本国内および海外の提携大学）での教育実習に参加します（希望者のみ）。

【講義計画】

- 第1回 授業計画についての説明
- 第2回 教授法研究—初級レベル（1）
- 第3回 教授法研究—初級レベル（2）
- 第4回 教授法研究—初級レベル（3）
- 第5回 教授法研究—初級レベル（4）
- 第6回 第一回模擬授業の準備—グループ分け・教授項目の選定
- 第7回 教案について
- 第8回 模擬授業1回目（構造シラバスに基づく）（1）
- 第9回 模擬授業1回目（構造シラバスに基づく）（2）
- 第10回 模擬授業1回目（構造シラバスに基づく）（3）
- 第11回 第二回模擬授業の準備—グループ分け・教授項目の選定
- 第12回 予備日
- 第13回 模擬授業2回目（機能シラバスに基づく）（1）
- 第14回 模擬授業2回目（機能シラバスに基づく）（2）
- 第15回 模擬授業2回目（機能シラバスに基づく）（3）
- 第16回 グループ発表に関する全体の講評
- 第17回 教授法研究—中級レベル（1）
- 第18回 教授法研究—中級レベル（2）
- 第19回 教授法研究—中級レベル（3）
- 第20回 教授法研究—上級レベル
- 第21回 第三回模擬授業の準備—教授項目の選定
- 第22回 予備日
- 第23回 模擬授業3回目（個人発表）（1）
- 第24回 模擬授業3回目（個人発表）（2）
- 第25回 模擬授業3回目（個人発表）（3）
- 第26回 模擬授業3回目（個人発表）（4）
- 第27回 模擬授業3回目（個人発表）（5）
- 第28回 模擬授業全体の講評と相互評価の検証
- 第29回 日本語教師という仕事について
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 20% 出席 30%

- ・ノートに毎回の授業をまとめ、指定された課題もそこに記入し、それを適宜提出することで出席状況と授業の理解度を確認します。
- ・グループ単位で行う模擬授業は学生間の相互評価を行います（各人が評価表に記入し、コメントはすべてフィードバックします）。
- ・日本語教師資格関連の最終段階の授業なので、基本的には全回出席が求められます。

【教科書】

実習形態の授業なので、指定する教科書はありません。使用する資料については必要に応じて教員が準備、配布します。教授法2で使った『新・はじめての日本語教育2—日本語教授法入門』（高見沢孟、2004）は携帯して下さい。

【参考文献】

- ・『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』（川口義一&横溝紳一郎 ひつじ書房、2005）
- ・『コミュニケーションのための日本語教育文法』（野田尚史編、くろしお出版、2005）
- ・『よくわかる教授法』（小林ミナ、アルク、1998）
- ・『日本語教授法を理解する本—実践編』（三牧陽子、バベルプレス、1996）
- ・『教え方の基本』（丸山敬介 京都日本語学校、1995）
- ・『日本語教育論集』（吉田弥寿夫編、学習研究社、1991）
- ・『実践日本語教授法』（名柄迪監修 中西家栄子他 バベルプレス、1991）
- ・『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク、1989）
- ・『新・はじめての日本語教育2—日本語教授法入門』（高見沢孟、2004）

【備考】

実習を含む学生参加の度合いの高い授業なので、出席を最重要視します。模擬授業を行うので、授業時間以外に準備作業が必要となります。また実際の日本語教育の現場を知るために学内、学外での授業見学などを予定しているので、積極的に参加して下さい。教授法Ⅱで使った教科書を参考文献として適宜使うので、授業には持参して下さい。

科目名	クラス	講義区分
日本語の音声 <春集>		
村 中 淑 子	4 単位	

【講義概要】

文字にすれば全く同じ文であっても、発音を聞くと、外国人学習者である、あるいは自分と異なる地域の出身者である、とわかる場合が多い。語彙や文法ではなく、音声の特徴だけでも、違いがわかるわけである。音声のどこがどう違っているのだろうか。「なんとなく違う」というのではなく、「音声を分析的にとらえる」ための知識を身につけることを目的とする。日本語の具体的な音声について、口の中のどの部分がどう使われているのか、あるいは長さ・高さ・強さがどうなっているのか、などをひとつひとつ自分の口と耳で確認しながら学ぶ。

【学習目標】

日本語の母音・子音・アクセント・イントネーション・リズム等について、具体的に理解し分析的に把握すること、および、日本語学習者が日本語を習得する上で難しいと感じる音声上の特徴について理解することが目標である。

【講義計画】

- 第1回 音声学とは（何を明らかにするのか）
- 第2回 日本語の母音
- 第3回 日本語の子音1
- 第4回 日本語の子音2
- 第5回 日本語の子音3
- 第6回 特殊拍1
- 第7回 特殊拍2
- 第8回 音声と音韻
- 第9回 拍と音節とリズム
- 第10回 母音の無声化
- 第11回 これまでのまとめ(1)
- 第12回 日本語のアクセント1
- 第13回 日本語のアクセント2
- 第14回 日本語のアクセント3
- 第15回 日本語のアクセント4
- 第16回 日本語のアクセント5
- 第17回 イントネーションとプロミネンス
- 第18回 ポーズとリズム
- 第19回 これまでのまとめ(2)
- 第20回 日本語教育における音声教育1
- 第21回 日本語教育における音声教育2
- 第22回 日本語教育における音声教育3
- 第23回 日本語教育における音声教育4
- 第24回 日本語教育における音声教育5
- 第25回 日本語教育能力検定試験における音声問題1
- 第26回 日本語教育能力検定試験における音声問題2
- 第27回 日本語教育能力検定試験における音声問題3
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%
出席点の中には、授業中に行なわれる小テストや小レポート・発表等の結果も含まれる。

【教科書】

テキストは使用しない。プリントを配布する。参考文献は必要に応じて自習することが望まれる。

【参考文献】

国際交流基金日本語国際センター『教師用日本語教育ハンドブック ⑥発音改訂版』（凡人社）1990年
文化庁『日本語教育指導参考書1 音声と音声教育』（大蔵省印刷局）1971年
天沼寧・大坪一夫・水谷修『日本語音声学』（くろしお出版）1978年
松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』（アルク）1998年
齊藤純男『日本語音声学入門 改訂版』（三省堂）2006年

【備考】

2回に1回くらいの頻度で、小テストを課す。小テストは最終的なテストの内容とも重なる。よく復習して臨むこと。
グループごとの発表を課す予定。日本語教育の教科書・教材から、音声教育の部分について、発表してもらう。教科書・教材はこちらから指定する。発表に際しては、授業外の時間を使って十分に準備を行うことが必須となる。
・08～09生対象

科目名	クラス	講義区分
日本語文法論 <秋集>		
有 川 康 二	4 単位	

【講義概要】

消化の法則とメカニズムを理解するために胃腸という臓器を調べます。免疫の法則とメカニズムを理解するために血液やリンパ系細胞等の免疫システムを調べます。この授業では、言語情報処理の法則とメカニズムを理解するためにヒト脳という臓器を調べます。ヒト脳という臓器を解剖するのではなく、私たちひとりひとりが自分の母語（例えば、日本語）を使って、すなわち、自分の脳を使って、実験を行いながら、母なる自然の創造したヒト脳という情報処理システムで働く法則とメカニズムを調べます。

【学習目標】

人間の脳の言語システムは、母なる自然が創った複雑な情報処理システムです。言語システムの意味と構造の情報処理の法則とメカニズムを調べます。例えば、「太郎は毎日料理と掃除をする」は変ではないが、「太郎は毎日料理をすると掃除をする」は変です。「John knows Mary」は変ではありませんが、「太郎は花子を知る」は変です。何故、変なのでしょう。この時、頭の中で何が起っているのでしょうか。「掃除」は名詞なのでしょう、動詞なのでしょう。そもそも名詞と動詞を分ける根拠は何なのでしょう。小学校の時に主語という語を習いましたが、「象は鼻が長い」の主語はどれでしょうか。「花子が太郎が好きなこと」では主語は二つあるのでしょうか。「あ、雨だ！」では主語はないのでしょうか。このような問題を考えながら、母なる自然の創造したヒト脳の自然言語情報処理システムの法則とメカニズムを炙り出していきます。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
ヒト脳の自然言語システムの法則とメカニズムを調べるには、どうしたらいいのでしょうか。ヒト脳の文に対する容認性反応を調べることは、私たち一人一人が自分の脳を使用して実験を行うことと同じです。
- 第2回 ・日本語学習者のミスから日本語の法則を探る
- 第3回 ・日本語学習者のミスから日本語の法則を探る
- 第4回 ・品詞分類の根拠（言語情報のリトマス試験紙）
- 第5回 ・品詞分類の根拠（言語情報のリトマス試験紙）
- 第6回 ・品詞分類の根拠（言語情報のリトマス試験紙）
- 第7回 ・主語とは何か。（「～は」「～が」が主語という定義は間違い）
- 第8回 ・主語とは何か。（「～は」「～が」が主語という定義は間違い）
- 第9回 ・主語とは何か。（「～は」「～が」が主語という定義は間違い）
- 第10回 ・国語で習った活用表は矛盾だらけ
- 第11回 ・国語で習った活用表は矛盾だらけ
- 第12回 ・国語で習った活用表は矛盾だらけ
- 第13回 ・「もう食べた？」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ
- 第14回 ・「もう食べた？」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ
- 第15回 ・「もう食べた？」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ
- 第16回 ・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
- 第17回 ・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
- 第18回 ・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
- 第19回 ・言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム
- 第20回 ・言語システムの自己組織化
- 第21回 ・言語システムの自己組織化
- 第22回 ・言語システムの自己組織化
- 第23回 ・言語システムの自己組織化
- 第24回 ・言語情報計算における経済性原理
- 第25回 ・言語情報計算における経済性原理
- 第26回 ・言語情報計算における経済性原理
- 第27回 ・言語情報計算における経済性原理
- 第28回 予備
- 第29回 予備
- 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 100%
筆記試験は、教科書、配布プリント、自筆ノートは持ち込み可。尚、平常点（どれだけ授業に積極的に参加したかなど）も考慮する。

【教科書】

有川康二 新・脳科学基礎論としての生物言語学（応用編）三恵社

【参考文献】

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味1』くろしお出版
寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味2』くろしお出版
畠山雄二(2004)『情報科学のための理論言語学入門－脳内文法のしくみを探る』丸善
野村奉幸(2005)『プラトンと考えることばの獲得－成長する文法・計算する言語器官』くろしお出版

科目名 クラス 講義区分	
日本史 01<通期>	
横 山 篤 夫	4 単位

【講義概要】

原始古代から近現代までを対象に日本史を講義する。ただし単なる通史ではなく、各時代の様々なテーマを選んで取り上げ、そこを切り口に時代を考える糸口を示す。文献史学を主にしながら周辺諸学問も併せて学ぶ。絵画史料や映像資料、古文書なども取り上げて実際に見る機会をもつ。

【学習目標】

毎回の講義について受講生から質問や意見書いてもらい、次の時間はそれに対する講義者の回答、見解を述べながら展開する。講義の前半は主に前近代、後半は近現代をとり上げる。特に近代の戦争、兵役と戦没者の問題は現代とつながる課題ともなっているが、陸軍墓地や慰霊・追悼の歴史的推移を検討しながら歴史を見る眼を養うと共に、総合的に歴史学の隣接諸学の成果に学ぶことも目指す。その上で各自でフィールドワークと文献を調査しレポートを纏める。

【講義計画】

- 第1回 授業ガイド、今世界はどうなっているか、日本史をどう学ぶか
- 第2回 授業ガイド、今世界はどうなっているか、日本史をどう学ぶか
- 第3回 課題レポートガイド（聞きとり、フィールドワーク、文献調査について）
- 第4回 課題レポートガイド（聞きとり、フィールドワーク、文献調査について）
- 第5回 具体的事例展開（主に前近代）
たとえばヤマト王権と日本、壬申の乱と教科書の記述、御霊信仰の成立と展開、茶道の歴史、世界で一番識字率の高かった江戸時代などについて適宜講義する。なお希望者対象にフィールドワーク（旧真田山陸軍墓地を歩く）も開催する予定。
- 第6回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第7回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第8回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第9回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第10回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第11回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第12回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第13回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第14回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第15回 具体的事例展開（主に前近代）
- 第16回 具体的事例展開（主に近現代）
たとえばゴーンからゴニムへ、偽官軍と人民非武装、陸海軍墓地と靖国神社の成立、大正デモクラシー下の軍隊、遺骨の還らなくなった戦争、共生社会と東アジア共同体構想などを適宜講義する。なお、講義の中でゲストスピーカーによる体験の聞きとりなども組み込む予定。
- 第17回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第18回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第19回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第20回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第21回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第22回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第23回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第24回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第25回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第26回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第27回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第28回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第29回 具体的事例展開（主に近現代）
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
課題レポートと出席点の総合で評価する。

【参考文献】

小田康徳、横山篤夫他編著『陸軍墓地がかたる日本の戦争』（ミネルヴァ書房、2006年）を課題作成のための必読文献に指定している。大学図書館に複本揃えてある。

科目名 クラス 講義区分	
日本史 02<秋集>	
寺 木 伸 明	4 単位

【講義概要】

本講義では、まず人権教育とは何か、またなぜ必要か、を説明する。続いて世界と日本における人権問題の歴史と現状について視聴覚教材を活用しながら理解を深めていく。さらに同和教育の成果を踏まえながら人権教育の歴史、人権教育の方法、人権教育の実際の進め方などについて学習する。その際、中学校および高校で人権教育に積極的に取り組んでいる教員をゲスト講師として招聘し、その体験を語っていただく予定である。授業の形態としては、できるだけ参加型学習を取り入れ、学期の後半には、受講生による人権教育の模擬授業を実施する。

【学習目標】

本講義の到達目標は、日本史学習の目的、日本史学習指導のための基礎知識、指導方法などについて理解を深め、かつ日本史学習指導のスキルを習得することである。

【講義計画】

- 第1回 授業の到達目標、授業の概要、授業計画、参考書、学生に対する授業評価等の説明
- 第2回 日本史学習の目的
- 第3回 歴史とは何か、日本史の見方
- 第4回 指導方法の基本的留意点
- 第5回 人類と日本人の起源——最近の研究成果を踏まえて
- 第6回 人類と日本人の起源についての指導の留意点
- 第7回 縄文時代の社会と文化およびその指導の留意点
- 第8回 弥生時代の社会と文化およびその指導の留意点
- 第9回 小国家の成立と邪馬台国およびその指導の留意点
- 第10回 古墳文化と大和政権・仏教文化およびその指導の留意点
- 第11回 律令国家の構造と身分制度およびその指導の留意点
- 第12回 平安京と摂関政治およびその指導の留意点
- 第13回 平安文化およびその指導の留意点
- 第14回 武士の台頭と鎌倉幕府の成立およびその指導の留意点
- 第15回 鎌倉文化およびその指導の留意点
- 第16回 南北朝の内乱と室町幕府の成立およびその指導の留意点
- 第17回 室町文化およびその指導の留意点
- 第18回 戦国の動乱と統一政権の成立およびその指導の留意点
- 第19回 幕藩体制の成立と近世身分制度およびその指導の留意点
- 第20回 幕藩体制の展開と近世の文化およびその指導の留意点
- 第21回 開港・倒幕と明治維新およびその指導の留意点
- 第22回 明治政府と自由民権運動およびその指導の留意点
- 第23回 立憲国家の成立、日清・日露戦争およびその指導の留意点
- 第24回 第一次世界大戦と日本およびその指導の留意点
- 第25回 大正デモクラシーとその後の軍部の台頭およびその指導の留意点
- 第26回 日中戦争と太平洋戦争およびその指導の留意点
- 第27回 占領と改革およびその指導の留意点
- 第28回 高度成長と社会の変化、現代の世界と日本およびその指導の留意点
- 第29回 日本史学習指導の課題と講義のまとめ
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
学生に対する評価
評価は、授業と自己学習を通じて、どれだけ日本史学習の目的、日本史全般にわたる基礎知識、指導方法などについて理解を深めたか、を基本的な観点とする。毎回、感想カードに講義の感想・意見・疑問などを書いて提出してもらう。これを出席点としてカウントする。学年末試験の点数を基本にして、出席点を加味して総合的に評価する。

【教科書】

テキストは使用しないが、適宜、資料を配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

【備考】

準備学習の指示

講義は、シラバスに基づいて行うので（また、各講義の最後に次のテーマを改めて紹介するので）、次の講義テーマに関する文献・資料を事前に読んでおくことが望ましい。前もって配布資料を配布する場合、その資料を事前に読んでおくこと。

科目名	クラス	講義区分
日本事情【外国人留学生用】 <秋集>		
友 沢 昭 江	4 単位	

【講義概要】

この授業は外国人留学生を対象とするもので、彼らがもつとも関心をもつ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識をえるというよりは、なぜそういう現象となるのかについてディスカッションを通じて学生自身が考え、自分の意見をまとめることをめざします。ディスカッションの幅を広げるために、日本語教師をめざす学生にも参加を求める予定です。

【学習目標】

その時々に応じたタイムリーなテーマを設定し、それに関する新聞記事を読んだりテレビ番組などを見ます。その後、それを土台にしてディスカッションを行い、お互いの意見交換をめざします。テーマごとに簡単な課題を提出します。新しい単語や表現がどんどん導入されるので、使い慣れた日本語辞書を持参してください。扱うテーマは現代日本の社会、文化、経済、政治、教育、娯楽などさまざまです。授業は基本的にすべて日本語で行うので、中級以上の日本語能力をもつ学生が対象となります。

【講義計画】

- 第1回 授業の目標説明と参加学生の自己紹介、および日本について関心のあるテーマを各自が考える
- 第2回 日本の伝統文化(1)
- 第3回 日本の伝統文化(2)
- 第4回 日本の伝統文化(3)
- 第5回 日本の近代(1)
- 第6回 日本の近代(2)
- 第7回 日本の近代(3)
- 第8回 現代の世相(1) 若者文化
- 第9回 現代の世相(2) 高齢者と少子化
- 第10回 現代の世相(3) 女性
- 第11回 現代の世相(4) 女性
- 第12回 日本とアジア(1)
- 第13回 日本とアジア(2)
- 第14回 日本と欧米(1)
- 第15回 日本と欧米(2)
- 第16回 日本の教育問題(1)
- 第17回 日本の教育問題(2)
- 第18回 日本の現代文化(1)
- 第19回 日本の現代文化(2)
- 第20回 日本の現代文化(3)
- 第21回 関西の文化と歴史(1)
- 第22回 関西の文化と歴史(2)
- 第23回 関西の文化と歴史(3)
- 第24回 予備日
- 第25回 学生によるプレゼンテーション(1)
- 第26回 学生によるプレゼンテーション(2)
- 第27回 学生によるプレゼンテーション(3)
- 第28回 学生によるプレゼンテーション(4)
- 第29回 プレゼンテーションの講評と評価
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

出席を第一に重視します。また新聞記事やテレビ番組で知った新出の語彙についての小テスト、授業で取り扱ったテーマについての確認テスト、各自が選んだ「日本」についての発表内容（一人15分程度）、授業への参加姿勢などを総合的に判断します。

【参考文献】

授業の内容に関連する資料は適宜授業内で配ります。関連する映像やインターネットへアクセスするなどして、視覚的な情報を多く使います。

【備考】

留学生のみを対象とします。（日本語で行うので、日本語能力がある程度必要です）

科目名	クラス	講義区分
日本文化研究－交流史からみた伝統と芸術 <春集>		
片 平 幸	4 単位	

【講義概要】

本講義では、19世紀末から20世紀初頭を対象として日本文化が世界にどのように広まっていたのか、受容のプロセスを考えていく。世界における日本イメージの変遷と、それに対する日本側の応答を文献や画像、そして映像など多面的な資料を読み解くことを通じて考察していく。交流史的な観点から、日本の芸術や伝統文化の独自性の規定や価値の創出がなされていく過程を分析する。日本の文化が外部からのまなざしを自覚することによって、どのような価値や概念が創出され、自己規定したのかなどについて考えていきたい。

【学習目標】

西欧から注がれた日本への眼差しと、その視線への日本側の応答の作用と構造を、近代という文脈に照らし合わせ、相対的な日本文化の理解を深めることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
成績の配分や小テストの日程などに、今学期の授業に関する重要な情報を説明するのでなるべく出席すること。
- 第2回 世界の日本研究の動向
- 第3回 「表象」をめぐる問題系
- 第4回 19世紀ヨーロッパのなかの「日本」(1)
- 第5回 19世紀ヨーロッパのなかの「日本」(2)
- 第6回 19世紀ヨーロッパのなかの「日本」(3)
- 第7回 19世紀ヨーロッパのなかの「日本」——理論(1)
- 第8回 19世紀ヨーロッパのなかの「日本」——理論(2)
- 第9回 19世紀ヨーロッパのなかの異文化——理論(1)
- 第10回 19世紀ヨーロッパのなかの異文化——理論(2)
- 第11回 19世紀ヨーロッパのなかの異文化——絵画を通じて(1)
- 第12回 19世紀ヨーロッパのなかの異文化——絵画を通じて(2)
- 第13回 19世紀ヨーロッパのなかの異文化——絵画を通じて(3)
- 第14回 19世紀ヨーロッパのなかの異文化——舞台芸術を通じて(1)
- 第15回 19世紀ヨーロッパのなかの異文化——舞台芸術を通じて(2)
- 第16回 19世紀 海を渡る日本文化——絵画(1)
- 第17回 19世紀 海を渡る日本文化——絵画(2)
- 第18回 19世紀 海を渡る日本文化——建築(3)
- 第19回 19世紀 海を渡る日本文化——庭園(4)
- 第20回 19世紀 海を渡る日本文化——庭園(5)
- 第21回 近代日本の自画像——日本人による日本文化論(1)
- 第22回 近代日本の自画像——日本人による日本文化論(2)
- 第23回 近代日本の自画像——日本人による日本文化論(3)
- 第24回 近代日本の自画像——日本人による日本文化論(4)
- 第25回 欧米の日本論の系譜(1)
- 第26回 欧米の日本論の系譜(2)
- 第27回 欧米の日本論の系譜(3)
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験 40%出席、小テスト 30%、出席 30%

小テストの日程や出席の取り方、その他成績の配分については第一回目に説明する。

【参考文献】

適宜、指示します
下記の準備学習の文献を参考にとすること

【備考】

【準備学習】
準備学習として下記の文献を読んでおくと、講義の理解を助けます。
岡倉天心『茶の本』（講談社学術文庫）
エドワード・W・サイード『オリエンタリズム（上・下）』（平凡社ライブラリー）
小川さくえ『オリエンタリズムとジェンダー：「蝶々夫人」の系譜』（法政大学出版局）

科目名 クラス 講義区分	
日本文化研究－日本語の特質 <通期>	
藤 原 健	4 単位

【講義概要】
「日本語はどのような言語なのか」ということをテーマに、いくつかの面から日本語の特徴を考え、その特質に迫りたい。
日本語は世界の他の言語と比べると特異な特徴が多く、いかなる語族・語派にも属さない言語である。日本語の文の構造を中心に、単語の形態的・統語的な基本となる特徴を押さえ、日本人が日本語をいかに使用しているのかについても考えてみたい。
春学期から秋学期のはじめにかけては、助詞の使い方（特徴）について順を追って観察する。
秋学期の後半は、「対照言語学」の入門のような内容で、主に「形態論」の面から日本語の特徴を見ていきたい。
なお、日本語の特徴に関して、「語彙・意味」と「文字・表記」については、それぞれ「語彙・意味論」、「文字・表記論」の講義で扱うので、興味があれば併せての受講を勧める。

【学習目標】
講義概要に書いた内容を、下記のテキストを元に考えていく。
テキストは2冊必要である。授業ではほぼ目次の順に1冊ずつ進めるつもりである。
日本語だけでは特徴がうまく説明できない場合は、適当な例を英語やフランス語から拾う。

【講義計画】
第1回 1. 日本語の文の構造
1) 自律文
第2回 2) 非自律文
第3回 3) 題説構文と叙述構文
第4回 2. 題説構文
1) 題説構文
第5回 2) 題目化と格助詞の「ハ」
第6回 3) 題目の種類
第7回 3. 叙述構文
1) 叙部と述部
第8回 2) 叙部の構造(1)
第9回 2) 叙部の構造(2)
第10回 3) 修飾部
第11回 4) 連体修飾
第12回 4. 指示詞
第13回 5. 人称と主語
1) 人称の表し方
第14回 2) 敬語
第15回 テスト (予定)
第16回 6. 述部の構造
1) 述部の要素
第17回 2) ヴォイス
第18回 3) アスペクト
第19回 4) テンス
第20回 5) ムード
第21回 6) 陳述
第22回 7. 単語の形態
1) 名詞の性
第23回 2) 名詞の数、および数詞
第24回 3) 名詞の格
第25回 4) 動詞の形態と種類
第26回 5) 形容詞他
第27回 8. 言語表現
1) 語順
第28回 2) あいまいさ
第29回 3) 「はい」と「いいえ」
第30回 テスト (予定)

【成績評価の方法】
試験 100%
定期試験（春学期、秋学期各1回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】
小池清治『日本語はどんな言語か』（ちくま新書）筑摩書房
金田一春彦『日本語（新版）』（下）岩波書店
『日本語（新版）』（上）は講義では使用しない。

【参考文献】
『日本語（新版）』（上） 金田一春彦 岩波書店

【備考】
【準備学習の指示】
予習は特に必要はないが、授業の進度に合わせて常にテキストを数ページ先まで読んでおいてほしい。
また、授業の後は、終わった部分を繰り返して読み、内容をよく理解してほしい。
「テキストの先を読んでおく」→「授業を聞く」→「終わった部分を読み返す」、この繰り返しを実行してほしい。

科目名 クラス 講義区分	
日本文化研究－柳田国男を再読する <秋集>	
梅 山 秀 幸	4 単位

【講義概要】
法制局参事官時代の柳田国男は日本全国を旅してまわり、それが後の彼の民俗学に結実する。彼の足跡をたどりながら、柳田国男の作品を読み直してみたい。『山の人生』および『毛坊主考』の冒頭には事実と相違する創作が見えるようにも思われるが、その意味を考えるとともに、彼の多方面におよぶ業績を通して、彼の思想の現代にもつ意味を考えてみたい。

【学習目標】
さまざまな事例を挙げながら、粘り強く思考する柳田の文章に慣れるとともに、日本の古い習俗を掘り起こすことによって、現代社会の在り方を考え直す材料にしたい。

【講義計画】
第1回 柳田国男の生き方－文学と民俗学－
第2回 法制局参事官という仕事
第3回 『山の人生』を読む(1)
第4回 『山の人生』を読む(2)
『山の人生』を読む(2)
第5回 「新四郎さんの告白」を読む
第6回 『毛坊主考』を読む(1)
第7回 『毛坊主考』を読む(2)
第8回 『秋風帖』を読む
第9回 『岷江記』を読む(1)
第10回 『岷江記』を読む(2)
第11回 ねぶた
第12回 美保神社の青柴垣の神事
第13回 『菅原伝授手習鑑』を分析する(1)
第14回 『菅原伝授手習鑑』を分析する(2)
第15回 「松王健児の物語」
第16回 「人を神に祀る風習」
第17回 「一つ目小僧その他」
第18回 歌舞伎十八番『暫』
第19回 道成寺の髪長姫とトリスタンとイズー(1)
第20回 道成寺の髪長姫とトリスタンとイズー(2)
第21回 「絵姿女房」
第22回 近松門左衛門の『用明天皇職人鑑』
第23回 沖縄のチョンダラー（京太郎）
第24回 ハロウィンとクリスマス(1)
第25回 ハロウィンとクリスマス(2)
第26回 『海南小記』－南方への視線－(1)
第27回 『海南小記』－南方への視線－(2)
第28回 レヴィ＝ストロースの日本への視線(1)
第29回 レヴィ＝ストロースの日本への視線(2)
第30回 まとめ

【成績評価の方法】
試験 60% レポート 20% 出席 20%

【参考文献】
『柳田国男全集』（ちくま文庫）

【備考】
もちろん興味を持って柳田国男の著作をあらかじめ読んでくれれば何もうことはないが、前もって渡したプリントに目を通すくらいのことはしてほしい。

科目名 クラス 講義区分	
日本文化史 <秋集>	
梅 山 秀 幸	4 単位

【講義概要】

日本には様々な演劇があり、今日まで伝承されている。授業では特に江戸時代に発展した人形浄瑠璃および歌舞伎を取り上げて、その成立した社会の背景をさぐりながら、映像に触れてその面白さを味わいたいと思う。江戸と上方の美意識の違いについても考えてみたい。

【学習目標】

廓とともに「悪所」とされる芝居小屋に世界がある。敵討に快哉を叫び、妻敵討ちに身をつまされる。舞台の上で殺される子どもたちや行き場を失って心中を遂げる男女に袖を絞る。まずは堪能して欲しい。

【講義計画】

- 第1回 人形浄瑠璃と歌舞伎
- 第2回 上方の放蕩息子『夕霧阿波鳴門』一
- 第3回 廓の世界―新町と吉原―
- 第4回 江戸の粋とは一『助六由縁江戸桜』一(1)
- 第5回 江戸の粋とは一『助六由縁江戸桜』一(2)
- 第6回 神事としての荒事一『暫』と成田屋の睨み一
- 第7回 日本人はなぜ『勧進帳』が好きなのか?
- 第8回 西洋のプレイボーイは破滅する一コメディ・フランセーズの『ドン・ジュアン』一
- 第9回 恋はままならぬもの一コメディ・フランセーズの『シラノ・ド・ベルジュラック』一
- 第10回 この世の名残り一『曾根崎心中』一(1)
- 第11回 この世の名残り一『曾根崎心中』一(2)
- 第12回 雪の中の逃避行一『冥途の飛脚』一(1)
- 第13回 雪の中の逃避行一『冥途の飛脚』一(2)
- 第14回 なぜ小太郎は死ななくてはならなかったか一『菅原伝授手習鑑』一(1)
- 第15回 なぜ小太郎は死ななくてはならなかったか一『菅原伝授手習鑑』一(2)
- 第16回 なぜ小太郎は死ななくてはならなかったか一『菅原伝授手習鑑』一(3)
- 第17回 なぜ小四郎は死ななくてはならなかったか一『近江源氏先陣館』一(1)
- 第18回 なぜ小四郎は死ななくてはならなかったか一『近江源氏先陣館』一(2)
- 第19回 新渡戸稲造の『武士道』は歌舞伎の中の武士道
- 第20回 和辻哲郎の『日本精神史』
- 第21回 フィリップ・アリエスの『子どもの誕生』
- 第22回 凝縮された日本的なるもの一『仮名手本忠臣蔵』一(1)
- 第23回 凝縮された日本的なるもの一『仮名手本忠臣蔵』一(2)
- 第24回 凝縮された日本的なるもの一『仮名手本忠臣蔵』一(3)
- 第25回 凝縮された日本的なるもの一『仮名手本忠臣蔵』一(4)
- 第26回 韓国における『春香伝』、日本における『忠臣蔵』
- 第27回 夢幻の美しさ一能の世界一(1)
- 第28回 夢幻の美しさ一能の世界一(2)
- 第29回 わわしい女一狂言の世界一
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

【参考文献】

授業のときに指示する。

【備考】

江戸の日常語は耳遠い。前もって渡したテキストには眼を通しておいた方が劇の進行の理解が深まるはずである。

科目名 クラス 講義区分	
日本文化論 [02生～] <春集>	
松 澤 俊 二	4 単位

【講義概要】

この講義では、日本列島に住み暮らしした人々の、古代から近代に至るまでのさまざまな「旅」の経験について考えることとします。みなさんのなかには旅行を趣味とする人も多いでしょうが、しかし快適な乗り物に乗り、おいしいものを食べて、珍しい風景を楽しむという経験が、常に旅行に伴っていたわけではありません。例えば不変と見える山岳風景でさえも、今の私たちの眺め方と古代の人のそれとは大きな違いがあったのです。彼らはどのように「風景」を眺めていたのでしょうか。またそもそも彼らはどのような理由から旅に出て、途上ではいかなる感情を抱き過ごしたのでしょうか。そうした旅にまつわる諸経験を物語や詩歌、紀行文などを基にして考えてゆくことにしましょう。講義は古代から近世江戸期までを扱う前半と、明治期以降を扱う後半に分けて実施します。前半終了時には授業内レポートを実施し、評価の一部とします。

【学習目標】

古代から近代に至るまでの「旅」の変遷を通して、「日本文化」「歴史」の多様性、歴史性を理解する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 神話と歌謡
- 第3回 『万葉集』①
- 第4回 『万葉集』②
- 第5回 『伊勢物語』
- 第6回 『土佐日記』
- 第7回 西行
- 第8回 松尾芭蕉
- 第9回 十返舎一九『東海道中膝栗毛』
- 第10回 橘南溪『東西遊記』
- 第11回 鈴木牧之『北越雪譜』
- 第12回 平田篤胤『仙郷異聞』
- 第13回 中間レポート
- 第14回 地図と地名について
- 第15回 久米邦武『米欧回覧実記』
- 第16回 明治天皇の巡幸について
- 第17回 イザベラ・バード『日本奥地紀行』
- 第18回 国木田独步『武蔵野』
- 第19回 正岡子規の紀行文
- 第20回 田山花袋の紀行文
- 第21回 若山牧水の紀行文
- 第22回 風景の変遷について一志賀重昂、柳田国男等
- 第23回 与謝野鉄幹・木下杢太郎・北原白秋・平野万里・吉井勇『五足の靴』
- 第24回 「故郷」の誕生一石川啄木、萩原朔太郎その他
- 第25回 「鉄道唱歌」の諸問題
- 第26回 植民地への／からの旅
- 第27回 幾つもの「日本」を見出す一坂口安吾と宮本常一
- 第28回 現代社会における「旅」の諸相
- 第29回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 40% 出席 20%
コースの12回までを前期として、その終了時に、授業内レポートを課します。

【教科書】

使用しません。授業時に配布します。

【参考文献】

適宜指示します。

科目名 クラス 講義区分	
人間発達論 <春集>	
安 原 佳 子	4 単位

【講義概要】

人は、誕生してから自分の周りの環境との相互作用によって育っていく。以前は「発達」というと、乳幼児期から青年期までに焦点があてられていたが、現在は生涯発達という観点から、人が生まれてから(胎児期から)なくなるまでの変化として捉えられている。

身体的成長や運動能力、言語、認知、社会性など精神活動など、一口に発達といっても幅広い領域にまたがり、また、家族、社会、文化、時代など、多くの環境要因によっても変わってくる。そのため、これまで様々な視点から発達理論が唱えられてきた。

本講義では、発達理論を概観し、特に乳幼児期から青年期における課題を中心にみていき、人間理解を深める。さらに、福祉等の対人援助の仕事の視野にいれ、発達の支援について応用行動分析の立場から触れる。

【学習目標】

発達理論の概要を理解し、特に乳幼児期から青年期における課題をみていき、人間理解を深める。さらに、福祉等の対人援助の仕事の視野にいれ、発達という視点からの支援について考える。

【講義計画】

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 発達とは（発達心理学の歴史）
- 第3回 発達とは（生涯発達）
- 第4回 発達のプロセスと理論（身体）
- 第5回 〃 （運動①）
- 第6回 〃 （運動②）
- 第7回 〃 （感覚、知覚）
- 第8回 〃 （情緒）
- 第9回 〃 （動機づけ）
- 第10回 〃 （認知①）
- 第11回 〃 （認知②）
- 第12回 〃 （認知③）
- 第13回 〃 （自我①）
- 第14回 〃 （自我②）
- 第15回 〃 （対人関係）
- 第16回 〃 （社会性）
- 第17回 〃 （道徳性）
- 第18回 〃 （言語、コミュニケーション①）
- 第19回 〃 （言語、コミュニケーション②）
- 第20回 〃 （遊び）
- 第21回 発達における課題について
- 第22回 発達上の障害と支援①
- 第23回 発達上の障害と支援②
- 第24回 発達上の障害と支援③
- 第25回 発達上の障害と支援④
- 第26回 発達の支援と応用行動分析①
- 第27回 発達の支援と応用行動分析②
- 第28回 発達の支援と応用行動分析③
- 第29回 試験
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の課題・レポート（50%）、および学期末試験（50%）により、総合的に判断する。

【教科書】

授業時に提示する

【参考文献】

授業時に提示する

【備考】

【準備学習の指示】

各回の授業の内容はそれぞれ関連しているので、復習をして次の授業に臨むこと

科目名 クラス 講義区分	
ネットワーク実習 01<秋>	
中 崎 修 一	2 単位

【講義概要】

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。

【学習目標】

情報通信ネットワークに関する知識や技術を、実際にコンピュータを利用して確認し、今後活用する事を目標とする。その利用の中で、ただ単に利用するだけではなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。また、Linuxの利用も経験し、Windows以外のネットワークOSについて学ぶ。（パソコン実習環境の変更により、授業内容も変更する場合がある）

【講義計画】

- 第1回 コンピュータ・ネットワークとは
- 第2回 インターネットワーキング
- 第3回 ネットワークを活用した情報収集
- 第4回 ネットワーク技術の基礎
- 第5回 通信プロトコル
- 第6回 HTML、XML、Java、JavaScript（1）
- 第7回 HTML、XML、Java、JavaScript（2）
- 第8回 HTTP
- 第9回 様々なネットワーク上のサービス
- 第10回 ネットワーク・セキュリティ
- 第11回 今後のネットワーク事情
- 第12回 Windows以外のOS Linux（1）
- 第13回 Windows以外のOS Linux（2）
- 第14回 Windows以外のOS Linux（3）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 70% 出席 30%
毎回出す課題と出席を評価対象とする。
（コンピュータを利用した演習課題）

【教科書】

無し。
ウェブページにて資料提示。

【参考文献】

適宜紹介

【備考】

【準備学習の指示】

パソコンを利用した実習のため、Microsoft Windows及び電子メール、ウェブの利用方法を習得していることを前提とする。なお、課題の提出方法や連絡手段は電子メールのみとするため、添付ファイルを含めた送信や受信方法を確認しておくこと。

科目名	クラス	講義区分
ネットワーク実習	02<秋>	
ネットワーク実習	03<秋>	
初瀬慎一	2単位	

【講義概要】

本実習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】

近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

ネットワークの利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コンピュータネットワークとは
- 第3回 ネットワーク技術の基礎
- 第4回 多様なメディアの性質
- 第5回 メディアの帯域幅の測定 1
- 第6回 メディアの帯域幅の測定 2
- 第7回 ホストの識別
- 第8回 ネットワーク技術の基礎
- 第9回 通信プロトコル
- 第10回 インターネットの歴史
- 第11回 インターネット詳細
- 第12回 ネットワーク上のサービス
- 第13回 ネットワークの安全性
- 第14回 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

【教科書】

資料は講義時に配布する。

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

【備考】

【準備学習の指示】 ネットワークの基礎知識を有していること、あるいは春学期ネットワーク論での配布資料（教材フォルダから入手できる）に目を通しておくこと。

科目名	クラス	講義区分
ネットワーク論	01<春>	
中崎修一	2単位	

【講義概要】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説する。

【学習目標】

現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
現代社会とネットワーク概説
- 第2回 情報通信ネットワーク
- 第3回 通信の基礎
- 第4回 伝送媒体
- 第5回 通信制御
- 第6回 IP (Internet Protocol)
- 第7回 TCP、UDP
- 第8回 通信用アプリケーション(1) WWW
- 第9回 通信用アプリケーション(2) 電子メール
- 第10回 インターネット
- 第11回 ブロードバンド
- 第12回 LAN構築
- 第13回 セキュリティ
- 第14回 様々な問題点
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 35% 出席 15%
レポート課題の提出と、まとめ試験の受験は必須とする。

【教科書】

金城俊哉 世界でいちばん簡単なネットワークのe本 株式会社秀和システム

【参考文献】

適宜紹介

【備考】

【準備学習の指示】

パソコンやインターネットの基本的な用語の理解、利用方法の習得を前提として授業を進行するため、再確認しておくこと。

科目名	クラス	講義区分
ネットワーク論	02<春>	
ネットワーク論	03<春>	
初瀬慎一	2単位	

【講義概要】

本講義では、ネットワークリテラシーに関する適応力を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用と基盤技術を習得して、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
ネットワークとは
- 第2回 コンピュータの識別1
- 第3回 コンピュータの識別2
- 第4回 インターネットの仕組みとLAN間接続1
- 第5回 インターネットの仕組みとLAN間接続2
- 第6回 インターネットアプリケーションとサーバ
- 第7回 通信ソフトウェアとプロトコル
- 第8回 TCP/IPプロトコル
- 第9回 TCP/IPとEthernet
- 第10回 伝送速度と通信サービス
- 第11回 インターネットのセキュリティ
- 第12回 ダダ漏れオフィスへの正しい対処
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
試験を中心に、小テスト、レポートの評価との総合評価を行う。
出席は3分の2以上であること。

【教科書】

資料は適宜配布する

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

【備考】

【準備学習の指示】 配布資料を熟読しておくこと。

科目名	クラス	講義区分
農業経済論 <通期>		
浦出俊和	4単位	

【講義概要】

WTO体制下において、農産物貿易の自由化が進展している。農産物輸入大国である日本は、先進国の中でも自給率が約40%と非常に低く、6割以上の食料を海外に依存している。一方で、近年、輸入食料の安全問題、食品偽装問題等、食の安全問題が社会問題化しており、消費者の食の安全に対する関心も高まっている。このような状況下で、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということとは、非常に重要な課題である。

本講義では、まず世界の食料問題を取り上げ、食料の需要と供給について考える。次に、農業生産の特質と農産物貿易の特徴について取り上げ、先進国における農業保護政策とその問題について講義するとともに、農産物輸入大国である日本における食の安産問題の背景と要因についても取り上げる。

農業経済論では、若干ミクロ経済学の理論を援用するが、ミクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、ミクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

【学習目標】

本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 食料問題とは？
- 第3回 農業生産の特質
- 第4回 世界の農業問題
- 第5回 経済発展と食料需給
- 第6回 食料需要のシフト要因(1)
- 第7回 食料需要のシフト要因(2)
- 第8回 食料供給のシフト要因(1)
- 第9回 食料供給のシフト要因(2)
- 第10回 農産物価格形成の特徴(1)
- 第11回 農産物価格形成の特徴(2)
- 第12回 農産物価格形成の特徴(3)
- 第13回 途上国の農業問題と農産物市場の特徴(1)
- 第14回 途上国の農業問題と農産物市場の特徴(2)
- 第15回 中間まとめ
- 第16回 先進国の農業問題と農産物市場の特徴
- 第17回 政府の市場介入
- 第18回 先進国における農業保護政策(1)
- 第19回 先進国における農業保護政策(2)
- 第20回 先進国における農業保護政策(3)
- 第21回 農産物貿易の特徴
- 第22回 農産物貿易自由化の過程
- 第23回 WTO体制下の国際交渉
- 第24回 農産物貿易自由化の意義と問題点
- 第25回 日本の食料需給と食料安全保障
- 第26回 日本の農業生産と農業政策
- 第27回 食の安全問題の背景と要因
- 第28回 農業と環境
- 第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
原則として、学年度末試験の成績によって評価するが、前期末に実施する中間試験の結果も成績評価に加味する。

【参考文献】

- 1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
- 2) 荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
- 3) 矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

【備考】

講義概要や講義資料は、下記を参照のこと。
<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/agri-index.html>

科目名 クラス 講義区分		
博物館概論 <春>		
井 上 敏	2 単位	

【講義概要】

博物館の機能、歴史、法制度などの基本的な事柄について講義を行う。

【学習目標】

本講義は学芸員課程の基幹科目であるので、「博物館とは何か」「博物館学とは何か」といった基本的な事柄を理解するとともに博物館法や文化財保護法などの博物館資料の保護のための制度について理解する。

【講義計画】

- 第1回 博物館入門(1)ー博物館の定義、目的、機能、分類
- 第2回 博物館入門(2)ー博物館・文化財の専門職・学芸員
- 第3回 博物館の歴史(1)
- 第4回 博物館の歴史(2)
- 第5回 日本の文化財保護制度とその歴史(1)
- 第6回 日本の文化財保護制度とその歴史(2)
- 第7回 近代化遺産ー産業・交通・土木の遺産ー
- 第8回 エコミュージアム
- 第9回 地域社会と博物館ー世界遺産ー
- 第10回 文化財保護と国際条約(1)
- 第11回 文化財保護と国際条約(2)
- 第12回 生涯学習と博物館
- 第13回 チルドレンズミュージアム
- 第14回 まとめー現在の博物館制度が抱えている問題ー
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 22% 出席 28%

【教科書】

大堀 哲 博物館学基礎資料 樹村房
新しい博物館学 全国大学博物館学講座協議会西日本部会 芙蓉書房出版

【備考】

「準備学習の指示」
博物館学芸員課程の入門科目であるが、受講の前に自分の目でいろいろな博物館を見ておくことを強く勧める。また2冊のテキストのうち「新しい博物館学」の該当部分を読んでおくこと。

科目名 クラス 講義区分		
博物館学各論Ⅰ <春>		
井 上 敏	2 単位	

【講義概要】

本学では「博物館資料論」を博物館学各論Ⅰとして講義する。博物館資料については①基本的な事柄、②博物館展示論、③博物館資料の梱包、④博物館資料と国際条約、⑤保存科学概論の5つに分けて行う。

【学習目標】

「博物館資料論」では学芸員として必要な博物館資料の収集・保管・展示に関する基礎知識を身につけると共に博物館における資料保存の重要性とその難しさについて理解することを目指す。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 博物館資料論(1)
- 第3回 博物館資料論(2)
- 第4回 博物館資料論(3)
- 第5回 博物館展示論(1)
- 第6回 博物館展示論(2)
- 第7回 博物館展示論(3)
- 第8回 博物館資料の梱包(1)
- 第9回 博物館資料の梱包(2)
- 第10回 博物館資料の梱包(3)
- 第11回 博物館資料と国際条約
- 第12回 保存科学概論(1)
- 第13回 保存科学概論(2)
- 第14回 保存科学概論(3)
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

【教科書】

新しい博物館学 全国大学博物館学講座協議会西日本部会 芙蓉書房出版

【備考】

「準備学習の指示」
博物館学の中でも各論の科目は他の研究分野などの成果を取り入れた体系が含まれているので、テキストの「新しい博物館学」を読んで準備をしておくこと。
・インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分		
博物館学各論Ⅱ <秋>		
井 上 敏	2 単位	

【講義概要】

本学では「博物館情報論」と「博物館経営論」を「博物館学各論Ⅱ」で講義する。更に後者の「博物館経営論」については「博物館経営論」「博物館行財政論」「危機管理論」「博物館教育論」「博物館ボランティア論」に分けて講義する。

【学習目標】

「博物館情報論」では新しい博物館像が模索される中で、IT分野の発展目覚ましい技術を博物館の活動に取り入れることの必要性和、その活用についての理解を図る。「博物館経営論」ではミュージアム・マネジメントという新しい学問分野の成果を取り入れながら、単なる博物館「運営」ではなく、より積極的な博物館「経営」が必要であることを理解する。また「博物館行財政論」では昨今、博物館界で話題として取り上げられる「独立行政法人制度」や「PFI」、「指定管理者制度」等にも触れ、博物館における制度の重要性和「経営」の難しさについての理解を図る。更に地震などの天災による博物館の被害についても、発生してから対応するのではなく、それ以前より周到な対策を講じておく必要性について「危機管理論」で、またチルドレンズミュージアム等の教育に力点を置いた博物館の存在など博物館の教育機能からみた多様な点については「博物館教育論」で、また博物館を運営していく上で重要な役割を果たすボランティアについても「博物館ボランティア論」でそれぞれ講義するので、積極的に講義に取り組むこと。

【講義計画】

- 第1回 博物館経営論(1)
- 第2回 博物館経営論(2)
- 第3回 博物館教育論(1)
- 第4回 博物館教育論(2)
- 第5回 博物館教育論(3)
- 第6回 博物館ボランティア論(1)
- 第7回 博物館ボランティア論(2)
- 第8回 博物館ボランティア論(3)
- 第9回 博物館情報論(1)
- 第10回 博物館情報論(2)
- 第11回 博物館情報論(3)
- 第12回 危機管理論(1)
- 第13回 危機管理論(2)
- 第14回 博物館行財政論
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

【教科書】

新しい博物館学 全国大学博物館学講座協議会西日本部会 芙蓉書房出版

【備考】

「準備学習の指示」
博物館学の中でも各論の科目は他の研究分野などの成果を取り入れた体系が含まれているので、テキストの「新しい博物館学」を読んで準備をしておくこと。
・インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分		
博物館実習Ⅰ <集中>		
井 上 敏	1 単位	

【講義概要】

学芸員として必要な技術のうち、ごく基本的な事柄について学ぶ。視聴覚資料の加工、植物資料の台帳作成、展示企画の立て方、古文書の基本、紙資料の取り扱い方、考古遺物の測定と作図、土器の復元などを行う。

【学習目標】

博物館学芸員としての基礎的な技術を身につけるとともに実習内容に無いことも自分自身で修練して身につけること。

【講義計画】

- 第1回 9月中旬に5日間実施する予定である。詳細な日程については追って発表するので注意すること。また7月の土曜日1日を使って、「植物資料の台帳作成」と「視聴覚資料の加工とポスター作成」で使う資料を取材する。下記の実習内容はこの順番通り進められるわけではないので、注意すること。
視聴覚資料の加工とポスター作成
- 第2回 植物資料の台帳作成・展示企画の立て方
- 第3回 古文書の基本
- 第4回 考古遺物の測定と作図
- 第5回 土器の復元
- 第6回 紙資料の取り扱い方

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

【教科書】

使用しない。

【備考】

「準備学習の指示」
実際に実習を行うと時間が足りなくなることが多いので、実習の前に配布された「学芸員課程年報」を読み、どのような内容を行うのか、十分に理解して臨むこと。
・インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
博物館実習Ⅱ <集中>		
井 上 敏	1 単位	

【講義概要】

日本の博物館の多様性を理解するため、大阪を中心とした関西圏の博物館 8 館を見学する。その際には通常見学できないバックヤードなどを見学させていただく予定である。

【学習目標】

日本の博物館の多様性を理解するとともに、各自でできるだけ多くの博物館を見学することが望ましい。

【講義計画】

見学予定館（日程等については後日発表予定。見学館等の変更の可能性もあるので注意すること）

- ①和泉市いずみの国歴史館
- ②国立民族学博物館
- ③大阪歴史博物館
- ④滋賀県立琵琶湖博物館
- ⑤UCC コーヒー博物館
- ⑥和泉市久保惣記念美術館
- ⑦大阪日本民芸館
- ⑧大阪府立狭山池博物館

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

【教科書】

使用しない。

【備考】

「準備学習の指示」
この実習は博物館の多様性を理解することを目的にしているので、日ごろからさまざまな博物館を見学しておくこと。
・インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
博物館実習Ⅲ <集中>		
井 上 敏	1 単位	

【講義概要】

博物館概論、博物館学各論Ⅰ・Ⅱなどの講義や博物館実習Ⅰで身に付けた基本的な技術、博物館実習Ⅱで身に付けた博物館の多様な知識を踏まえ、実際に運営されている博物館で実習を行うことで、博物館における学芸員の仕事やその重要性を理解する。

【学習目標】

学芸員資格取得の総仕上げとして、博物館における学芸員の仕事を理解するとともに、各自の学芸員としてのスキルアップに向けての方向を確認する。

【講義計画】

実習館は受講生と希望先を相談した上で、別途決める。昨年度の実習受け先は和泉市久保惣記念美術館、大阪府立弥生文化博物館、大阪ガス・ガス科学館、なにわの海時空館などがある。

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

【教科書】

使用しない。

【備考】

「準備学習の指示」
この博物館実習Ⅲは学芸員課程最後の総仕上げの科目である。「博物館概論」、「博物館学各論Ⅰ・Ⅱ」、「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを十分に復習し、自分のものにして実習に臨むこと。
・インテグレーション科目

は
行

科目名 クラス 講義区分	
破産法 <春>	
高 田 賢 治	2 単位

【講義概要】

企業や個人が倒産した時に利用される破産法・民事再生法・会社更生法などを総称して倒産法または倒産処理法といいます。破産法は、総債権者の公平な満足と債務者の経済的更生を目的とする倒産法の基本法です。本講義では倒産法の種類をふまえて、破産法を体系的に講義します。

【学習目標】

本講義においては、経済社会の状況をふまえて、破産法を体系的に理解させることを通じて、倒産にまつわる諸問題を解決するための糸口を見つけることを目的とします。

【講義計画】

- 第1回 倒産処理制度の概要
- 第2回 倒産処理手続の種類
- 第3回 破産手続の申立てと保全措置
- 第4回 破産原因・破産手続開始決定
- 第5回 破産手続の機関・破産財団の範囲
- 第6回 破産債権と財団債権
- 第7回 双方未履行双務契約の扱い、取戻権
- 第8回 別除権
- 第9回 相殺権
- 第10回 否認権（詐害行為否認、偏頗行為否認）
- 第11回 否認権（特別の否認類型）
- 第12回 破産債権の届出・調査・確定
- 第13回 破産財団の管理・換価・配当
- 第14回 消費者破産と免責
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

山本和彦 倒産処理法入門 有斐閣

【参考文献】

伊藤眞「破産法・民事再生法（第2版）」（有斐閣・2009）

【備考】

【準備学習の指示】

テキストの該当箇所を読み、できれば引用されている破産法の条文をみておくこと。また、民法などの法律用語でわからないものがある場合は、法律用語辞典などで確認しておくこと。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
比較経済体制論 <秋集>	
上 野 勝 男	4 単位

【講義概要】

「ソ連（ロシア）の経済ってどんな特徴あるの？」ときかれたら、少し勉強したひとなら、旧ソ連では企業活動の自由がなく命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地がなく商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まってソ連は崩壊に至り、いまでは「体制転換」という「市場経済」＝資本主義のシステムへの移行がすすんでいる、と説明するかもしれない。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのは一見わかりやすい。でも、ワーキングプアという懸命に働いてもまともに生活を維持できない人々が急増しているような社会、アメリカ発の金融危機が広がるなかで世界に名だたる大会社が我先にと雇用を削減し、新規採用を抑制しようとしている社会、この私たちの日本も「市場経済」＝資本主義だと思ふと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか」と。

それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなのに、なぜソ連があんなふうに崩壊したのか」「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。

この講義では、こうした資本主義と社会主義、そしてソ連をめぐる疑問をじっくり考えていきます。

【学習目標】

上の講義概要にもとづいて、主に

（1）社会主義とは本来どのようなものか、（2）わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、（3）旧ソ連の経済体制をどう考えるか、なぜ崩壊することになったのか、について基本的な理解を得ることを学習目標と考えています。

【講義計画】

- 第1回 比較経済体制論で何を学ぶのか？

授業の進め方、成績評価の方法

- 第2回 第I部 社会主義とは何か？

- 1. 序論（1）

- 第3回 1. 序論（2）

- 第4回 2. 資本主義の本性とその矛盾（1）

- 第5回 2. 資本主義の本性とその矛盾（2）

- 第6回 2. 資本主義の本性とその矛盾（3）

- 第7回 2. 資本主義の本性とその矛盾（4）

- 第8回 2. 資本主義の本性とその矛盾（5）

- 第9回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（1）

- 第10回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（2）

- 第11回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（3）

- 第12回 3. 社会主義的将来の本質的特徴（4）

- 第13回 第II部 ソ連経済史概説―「社会主義経済」だったのか？―

- 4. 検討の視点とロシアの20世紀

- 第14回 5. 十月革命からネップの試みへ（1）

- 第15回 5. 十月革命からネップの試みへ（2）

- 第16回 5. 十月革命からネップの試みへ（3）

- 第17回 5. 十月革命からネップの試みへ（4）

- 第18回 6. ソ連型経済制度の成立（1）

- 第19回 6. ソ連型経済制度の成立（2）

- 第20回 6. ソ連型経済制度の成立（3）

- 第21回 6. ソ連型経済制度の成立（4）

- 第22回 6. ソ連型経済制度の成立（5）

- 第23回 7. ソ連経済の構造と矛盾（1）

- 第24回 7. ソ連経済の構造と矛盾（2）

- 第25回 7. ソ連経済の構造と矛盾（3）

- 第26回 7. ソ連経済の構造と矛盾（4）

- 第27回 8. ソ連体制崩壊後の行方

- 第28回 講義のまとめ

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 10% 出席 40%

成績評価の詳しいやり方については、第1回の講義で述べる。

【備考】

事情により、授業計画は変更される場合があります。

とくに授業時間を利用して、適当な時期に、理解を確認する小テストを実施するつもりなので、それに伴ってスケジュールが変更されます。

準備学習の指示

講義は配布プリントにしたがって進めます。

事前の準備として、毎回の授業で次の授業までに読んでおくべきプリント部分を指示します。それにしたがって、事前学習を進めてください。

科目名 クラス 講義区分	
比較文学 <通期>	
岩 男 久仁子	4 単位

【講義概要】

西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

【学習目標】

「イソップ伝(イソップの生涯の物語)」を中心に、講義を進めていく。
2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 イソップ寓話・伝記 伝承系統図、解説①
- 第3回 イソップ寓話・伝記 伝承系統図、解説②
- 第4回 ①原典イソップ伝の紹介 (第1部)
- 第5回 ②原典イソップ伝の紹介 (第1部)
- 第6回 ③原典イソップ伝の紹介 (第2部)
- 第7回 ④原典イソップ伝の紹介 (第2部)
- 第8回 ⑤原典イソップ伝の紹介 (第3部)
- 第9回 ⑥原典イソップ伝の紹介 (第4部)
- 第10回 ⑦原典イソップ伝の紹介 (第5部)
- 第11回 日本に伝播したイソップ寓話(明治期以後)
- 第12回 難題解決譚 蟻通明神縁起
- 第13回 難題解決譚 賢者アヒカル物語
- 第14回 まとめ
- 第15回 イソップ寓話の挿絵①
- 第16回 イソップ寓話の挿絵②
- 第17回 イソップ寓話の挿絵③
- 第18回 古代ギリシアの女性像①
- 第19回 古代ギリシアの女性像②
- 第20回 喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話①
- 第21回 喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話①
- 第22回 自由の問題①
- 第23回 自由の問題②
- 第24回 自由の問題③
- 第25回 自由の問題④
- 第26回 自由の問題⑤
- 第27回 自由の問題⑥
- 第28回 まとめ Quiz

【成績評価の方法】

講義の総まとめとして秋学期の終わりに→試験
夏休みの宿題として→レポート
年間通しての出席率+コメント→出席
どれか1つでも欠けていれば、評価しません。

【参考文献】

『イソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円
『イソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円

科目名 クラス 講義区分	
比較文化研究－インドネシアと日本の音楽文化 <通期>	
由 比 邦 子	4 単位

【講義概要】

インドネシアと日本は地域も民族も文化も異なるが、東南アジアもしくは東アジアの域内における位置関係、さらにインドもしくは中国という古代の大国の影響を色濃く受けているという点で共通性がある。そして、両国の音楽および芸能には明らかな類似性、またその反面、似て非なる相違点が見られる。本講義では、両国の古典音楽、古典芸能の諸相を対照させて論じ、このような類似もしくは相違が何に起因するのか考えていきたい。

【学習目標】

音楽は、それを生み出す人間が属する文化の脈絡内で理解しなければならない。したがって、「音楽は世界共通の言語ではない」ということをしっかり認識してもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 インドネシアと日本の文化的背景
- 第2回 音楽から見た日本文化と「インドネシア文化」
- 第3回 インドネシアと日本の古典音楽
- 第4回 外来音楽の受容と取捨選択
- 第5回 音楽の過去を知る手段
- 第6回 音楽史の連続性とミッシングリンクの存在
- 第7回 声楽と器楽という考え方
- 第8回 大規模器楽合奏
- 第9回 楽器の地域性・民族性
- 第10回 銅鼓の伝播とゴングの発展
- 第11回 日本の弦楽器の系統
- 第12回 インドネシアの弦楽器の今昔
- 第13回 型の組み合わせによる作曲
- 第14回 音楽と演劇の結びつき（上演芸術）
- 第15回 上演芸術を育む環境
- 第16回 能の幽玄美
- 第17回 大衆娯楽としての人形浄瑠璃と歌舞伎
- 第18回 インドネシアの影絵人形劇
- 第19回 インドネシアの舞踊劇と仮面劇
- 第20回 インドネシアの上演芸術の考え方
- 第21回 人形と人間の関係
- 第22回 好まれるストーリーやキャラクター
- 第23回 上演芸術の中核としての舞踊
- 第24回 創作と新作
- 第25回 伝統の創造
- 第26回 アウトサイダーの目
- 第27回 ポピュラー音楽を巻き込む伝統の力
- 第28回 インドネシアと日本の交差点―「ブンガワン・ソロ」

【成績評価の方法】

期末レポート80％、毎回実施する小試験20％

【参考文献】

柘植元一・植村幸生編『アジア音楽史』（音楽之友社）
櫻井哲男『アジア音楽の世界』（世界思想社）
吉川英史『日本音楽の歴史』（創元社）

【備考】

【準備学習の指示】

日本音楽史を概観するためには、日本史の知識が必要となる。本講義では、古代・中世・近世の音楽を取り上げるので、各時代の社会・文化的背景をしっかりとらえておくこと。
また、インドネシアが東南アジアにおいてどのような文化的位置づけがなされているか、調べておくこと。

は
行

科目名 クラス 講義区分	
比較文化研究－性と権力:東西史の裏街道 <春集>	
Philip Billingsley	4単位

【講義概要】

First of all, please note that the lectures will all be in ENGLISH! However, the English will be very easy to understand, so, even if you don't feel confident, why not give it a try? This course will be about aspects of gender in different parts of the world that you don't read about in the history books. I'll tell you about how we "learn" to be boys or girls, and compare the images of men and women in the West, where I grew up, in China, which is my area of speciality, and in Japan, which is my chosen home. After that I will pick up several different topics to show you how gender has affected the history of the world: the witch-hunts in Europe, the history of modern medicine, and the atomic bomb. I will also show you the surprising connections between the story of Frankenstein and the atomic bomb, and between the Chinese version of Cinderella and the tradition of binding women's feet in traditional China. Finally, I will look at the images of women and men in 20th century rock music and compare them with those in traditional fairy stories.

英語による講義とはいえ、極端にやさしい英語を使うので恐ろずに受講してみてください、思っているほど難しくないから（本当に！）。講義ではジェンダーの問題を取り上げるが「お説教スタイル」ではなく歴史教科書に載らない話を通してジェンダーが社会史に与えてきた影響に焦点を当てる。フォーカスは三つの文化圏にわたる：生まれ育った欧州、専門分野の中国、そして住み着いた日本。取り上げる項目は：中世ヨーロッパの「魔女狩り」、現代医学の歴史、「フランケンシュタイン物語」、そして原爆（不思議にもみんなつながっている！）、纏足、おとぎ話やロック音楽の男女像など。

【学習目標】

By suggesting fresh ways of thinking about familiar things such as witches, Frankenstein, and the atomic bomb, this course is intended to help you to look at the world through "new eyes", both to give you some new ideas about the world, and to help you take a fresh look at yourselves. By the end of the course, if you attend regularly and listen carefully, you will not only have improved your English listening ability but also gained a new understanding of the world around you.

魔女、医学、「フランケンシュタイン」、原爆、ロックなど「当たり前」にされがちなトピックの不思議な繋がりを指摘して世の中をフレキシブルに捕らえる可能性を示す。「新しい目」で物を見ることで自分自身と自分の周りを再発見する事が大いにある。しっかり出席していれば、英語の聴解力を磨くと同時に世の中をより鮮明に見つめる力が身につけられる。

【講義計画】

- 第1回 Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc. (コース内容の説明、授業の賢い受け方、宿題の説明、受講生の責任など。)
- 第2回 (Continued) Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.
- 第3回 (Continued) Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, etc.
- 第4回 An overview of the course: how I became interested in the topic of gender このコースについて；ジェンダーに関心を持つきっかけとなったできごと(1)
- 第5回 (Continued) An overview of the course: how I became interested in the topic of gender (2)
- 第6回 Nature vs. Nurture: learning to be boys and girls 「ネーチャー」か「ナーチャー」か：「男の子」、「女の子」へのみち
- 第7回 Girls and boys in Grimms' fairy tales 「グリム童話集」の男女像 (1)
- 第8回 (Continued) Girls and boys in Grimms' fairy tales (2)
- 第9回 Gender education in China 中国：ジェンダー教育の起伏

(1)

- 第10回 (Continued) Gender education in China (2)
- 第11回 (Continued) Gender education in China (3)
- 第12回 Images of women in Japan 日本文化の女性像(1)
- 第13回 (Continued) Images of women in Japan (2)
- 第14回 (Continued) Images of women in Japan (3)
- 第15回 (Continued) Images of women in Japan (4)
- 第16回 Footbinding, high heels, and the origins of "Cinderella" 纏足、ハイ・ヒール、そしてシンデレラ(1)
- 第17回 (Continued) Footbinding, high heels, and the origins of "Cinderella" (2)
- 第18回 (Continued) Footbinding, high heels, and the origins of "Cinderella" (3)
- 第19回 The witch-hunts and the roots of modern medicine 魔女狩りと現代医学のルーツ(1)
- 第20回 (Continued) The witch-hunts and the roots of modern medicine (2)
- 第21回 (Continued) The witch-hunts and the roots of modern medicine (3)
- 第22回 (Continued) The witch-hunts and the roots of modern medicine (4)
- 第23回 The shadow of the witch-hunts in modern society 魔女狩りが現代社会にかかる長い影
- 第24回 "Frankenstein" and the birth of the atom bomb 「フランケンシュタイン」と原爆の誕生(1)
- 第25回 (Continued) "Frankenstein" and the birth of the atom bomb (2)
- 第26回 (Continued) "Frankenstein" and the birth of the atom bomb (3)
- 第27回 (Continued) "Frankenstein" and the birth of the atom bomb (4)
- 第28回 Summary + Test Revision 要約+テストのための復習
- 第29回 Final Test

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 25% 出席 25%

There will be regular homework assignments, such as summaries of the lectures, and students will be expected to complete all of them. 宿題（講義の要約など）を定期的に出す。At the end of the course there will also be a major written test. (最後には筆記試験がある。)(いずれも日本語OK)

Finally, in order to improve your English hearing ability regular attendance at lectures is essential. Students who skip too many classes will fail. 英語の聴解力を磨くためには毎回の出席は欠かせない。欠席の多い受講生は落第する。

【参考文献】

特に無し。関連資料を随時配る。

【備考】

・英語による講義

科目名 クラス 講義区分	
比較文化研究－彫刻の世界 ＜秋集＞	
林 宏 作	4 単位

【講義概要】

すべての観察は比較ということの上に成り立っている。比較するということは、その座標として、比較が行われるための一定のカテゴリを前提とする。この講義では、エジプト、ギリシア、インド、東アジアなどにおける彫刻の特徴を概述し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。

【学習目標】

世界各地の彫刻を通して、比較芸術学を学習することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 ○ガイダンス ○授業計画について
 第2回 比較芸術学の課題
 第3回 エジプト概説
 第4回 エジプトの美術
 第5回 エジプト彫刻の特徴
 第6回 エジプト彫刻の永遠性
 第7回 エジプトの作画法
 第8回 ギリシア彫刻の起源
 第9回 ギリシア彫刻の様式—幾何学様式とアルカイック
 第10回 クラシック様式について
 第11回 ヘレニズムについて
 第12回 ビデオ観賞——ギリシアの彫刻
 第13回 ローマ美術の基盤
 第14回 ローマ彫刻とギリシア
 第15回 ローマの浮彫と石棺
 第16回 ビデオ観賞——ローマの彫刻
 第17回 中間試験
 第18回 彫刻の素材——乾漆
 第19回 彫刻の素材——塑
 第20回 彫刻の素材——銅
 第21回 彫刻の素材——木
 第22回 ビデオ観賞——彫刻の素材
 第23回 仏像概説
 第24回 如来について
 第25回 菩薩について
 第26回 明王について
 第27回 天部について
 第28回 羅漢について
 第29回 まとめ
 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

【参考文献】

- 『近代芸術学の成立と課題』 吉岡健二郎著、創文社
 『芸術の世界』 井島 勉編、創文社
 『原色 日本の美術』 小学館
 『中国美術全集・彫塑編』 人民美術出版社

【備考】

【準備学習の指示】

授業中に指示された参考文献を使って予習・復習して下さい。

科目名 クラス 講義区分	
比較文化研究－日韓社会比較 ＜通期＞	
古 田 富 建	4 単位

【講義概要】

日本と韓国の文化事象を比較しながら学んでいく。授業の前半は日本の宗教文化と比較しながら韓国の宗教文化を学ぶ。一般的に韓国社会は儒教社会といわれているが、どこまでがそうで、何が揺らいできているのかを考える。後半は戦後日本社会の中で最近まで最大のマイノリティーコミュニティであった在日社会について学び、在日コリアンとはどんな人たちで、どんな問題を抱えているかを学ぶ。授業の助けになる映像資料なども使う。

【学習目標】

- ・異文化を知る上で最も重要な「比較」という方法論を通して日韓両社会の理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス（評価方法と授業内容について）
 第2回 儒教とは？韓国への流入
 第3回 儒教の体現者：両班
 第4回 儒教文化1：親族関係
 第5回 儒教文化2：本貫と名前
 第6回 儒教文化3：儀礼
 第7回 現代にも見られる儒教倫理
 第8回 儒教文化の揺らぎ
 第9回 韓国のキリスト教1
 第10回 韓国のキリスト教2と新宗教
 第11回 仏教
 第12回 シャーマニズム
 第13回 古い文化、風水地理説、終末思想など
 第14回 宗教文化のまとめ
 第15回 在日コリアンという存在1：名称や法的地位
 第16回 在日コリアンという存在2：名称や法的地位
 第17回 在日の歴史①（戦前のコリアン）
 第18回 ドキュメンタリー「HARUKO」観賞
 第19回 在日の歴史②（70年代までのコリアンの歴史）
 第20回 在日の歴史③（80年代から現在まで）
 第21回 在日社会の問題1
 第22回 在日社会の問題2
 第23回 在日社会の日常1
 第24回 在日社会の日常2
 第25回 同世代の在日：アイデンティティの模索
 第26回 在日社会の産業1
 第27回 在日社会の産業2
 第28回 在日社会のまとめ

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%

授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。それが出席の確認にもなります。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

【備考】

主にプリントを配布して行う。

科目名 クラス 講義区分	
比較文化研究－日韓の民俗文化 <通期>	
崔 杉 昌	4 単位

【講義概要】

民俗学および文化人類学の手法を用いて、日本と韓国の現代社会における民俗文化を取り上げ、庶民の暮らしや文化を理解し合うのが本講義の目的である。民俗学は、歴史史料には触れられていないものの、つまり口頭で伝承されてきた諸地域の生活文化を基礎資料として、人々の信仰や習慣を研究する学問である。

日韓両国は歴史的な深い関わりはもとろん、文化の面においても相通じるところが多い。しかしながら戦後から現代における各々の国における文化の変容は凄まじい。とくに人口の都市流入、農村の過疎化、伝統的価値観の変化、都市難民、格差社会といったものが我々の生活文化に与えた影響は農村都市を問わず大きい。比較的視座から一つひとつの文化事象を照らし合いながら、文化の相関性を考えてみたい。本講義ではビデオやCDなどの関連映像も教材として扱うつもりである。

【学習目標】

- ・比較文化研究方法論として、民俗学・文化人類学の手法を身につける。
- ・自文化・異文化についての理解度を深める。
- ・家・家族・近隣社会（地域）を柱とする比較文化研究の視座を培う。

【講義計画】

- 第1回 講義の案内
民俗学へのいざない
第2回 現代学としての民俗学
第3回 柳田國男と民俗学
第4回 民俗学の理念と研究方法
第5回 ムラ・村落社会の仕組み
第6回 民俗社会における出産
第7回 子どもの成育と歳祝い
第8回 若者と寝屋子制度
第9回 結婚と非婚
第10回 現代のお葬式事情
第11回 お墓のいろいろ
第12回 日韓の死生観
第13回 都市の祭礼①
第14回 都市の祭礼②
第15回 まとめ
第16回 民俗学の新しい動向
第17回 多文化社会へのまなざし
第18回 名づけの民俗学
第19回 暮らしの中の俗信
第20回 食べ物の民俗
第21回 妖怪－異界を覗く
第22回 異類婚姻譚
第23回 秋祭りのいろいろ
第24回 道祖神信仰
第25回 地域の年越し行事
第26回 来訪神－ナマハゲ
第27回 正月の民俗的意味
第28回 隣国の正月行事
第29回 民俗学の課題
第30回 期末テスト

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 50% 出席 30%
自由テーマにもとづき、民俗学の手法によってフィールドワークを行い、報告書を提出することが要望される。

【教科書】

八木 透 他編 こんなに面白い民俗学 ナツメ社

【参考文献】

随時紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
比較文明論 <春集>	
串 田 久 治	4 単位

【学習目標】

二十世紀後半、西欧文明を見直して非西欧文明の価値を組み込む新しい関係概念と望ましい方向性を探求しようと、ヨーロッパに「比較文明」が誕生しました。知の総合を旨とする新しい学問です。

一方、西欧文明の普遍的価値を信じていたアジア諸国は、それが必ずしも世界に普遍的価値ではないことを知り、ようやくアジア独自の文明・文化の価値観に目を向け始めました。そして、2001年、国連はこの年を「文明間の対話年」とし、二十一世紀の第一ページを飾ったのです。

ところが現実世界は今なお「文明間の対立」が深く、それは今後ますます激化するであろうと予測する研究者もいます。

本講義は世界の文明・文化を単に「比較」して「普遍的な文化」を求めるものではありません。古代中国文明が提起する様々な問題（講義で紹介する）を足がかりにして、「人間の普遍性」を共に考える授業です。したがって、ただ聞いているだけの、黒板との一方通行の講義ではなく、学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションなどによって、学生諸君が主体となる授業です。

【講義計画】

第一部 比較文明序説

1. The Perfect European should be……
2. 「スイカ」は何語？
3. 漢字の世界

第二部 文明の諸相

- 1 対の思考
- 2 理想的な生活
- 3 esprit エスプリ
- 4 言葉遊びの世界

第三部 「人間の普遍性」を求めて

- 1 価値観を疑うー「無用の用」
- 2 理念と現実
- 3 復讐の倫理
- 4 中華思想とユニラテリズム

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【参考文献】

KUSHIDA' S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>
串田久治『王朝滅亡の予言歌ー古代中国の童謡』（大修館）
串田久治『無用の用ー古代中国から今を読み解く』（研文出版）
串田久治・諸田龍美『漢詩の知恵』（学研）
串田久治『儒教の知恵ー矛盾の中に生きる』（中公新書）
串田久治『天安門落書』（講談社現代新書）
串田久治『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）

今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）
ユルゲン・ハーバーマース著『法と正義のディスクール』（未来社）
青木保著『異文化理解』（岩波新書）
青木保著『多文化世界』（岩波新書）
藤原帰一著『デモクラシーの帝国』（岩波新書）
ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール』（集英社新書）
梅棹忠夫著『文明の生態史観』（中公文庫）
森谷正規著『文明の技術史観』（中公新書）
サミュエル・ハンチントン著『文明の衝突』（集英社）
伊藤俊太郎『比較文明』（東京大学出版会）